

学校コード F127310108125

注3

設置年度 平成 31年度

計画の区分： 学部の設置

注1

認可

注2

四天王寺大学 看護学部

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人四天王寺学園

令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 IR・戦略統合課

職名・氏名 課長 イマニシ トモフリ
今西 智徳

電話番号 072-956-0062

（夜間） 072-956-3181

e-mail ircenter_n@shitennoji.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

看護学部

＜看護学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	23
4. 既設大学等の状況	24
5. 教員組織の状況	25
6. 附帯事項等に対する履行状況等	62
7. その他全般的事項	63

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 四天王寺学園

(2) 大学名

四天王寺大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒583-8501
大阪府羽曳野市学園前三丁目2番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タキトウ ソンジュン) 瀧藤 尊淳 (平成25年4月)	(ミナミタニ エケイ) 南谷 惠敬 (令和4年4月)	任期満了による変更 令和4年4月1日(4)
学長	(イワオ ヒロシ) 岩尾 洋 (平成28年4月)	(スハラ ショウジ) 須原 祥二 (令和4年4月)	任期満了による変更 令和4年4月1日(4)
学部長	(ヤマモト アイコ) 山本 あい子 (平成31年4月)	(イワオ—ヒロシ) (オカヤ ケイコ) 岩尾—洋岡谷 恵子 (令和3年4月) (令和3年6月)	着任による変更 令和3年6月1日(4) 任期満了による変更 令和3年4月1日(3) 令和3年6月1日より岡谷恵子教授に変更予定
学科長等	(ヤマモト アイコ) 山本 あい子 (平成31年4月)	(アカイ ユキコ) (オカヤ ケイコ) (フジワラ ナオコ) 赤井—由紀子岡谷—恵子藤原 尚子 (令和2年4月) (令和3年6月) (令和4年4月)	任期満了による変更 令和4年4月1日(4) 任期満了による変更 令和3年4月1日(3) 令和3年6月1日より岡谷恵子教授に変更予定

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
 (例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)
 令和4年度に報告する内容 → (4)
 ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
 ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
 ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部や学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください（作成方法は、事務連絡「令和4年度の履状状況報告書の提出について（依頼）」を確認してください）。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和4年度までの5年間）ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）」により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
看護学部 看護学科 学士（看護学）	保健衛生学関係 （看護学関係）	4 年	80 人	— 人	320 人	新規入学者を募集	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員			80人	—人	80人	—人	80人	—人	80人	—人			1.07倍	—倍	
			(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)					
			[—]	[—]	[—]	[—]	[—]	[—]	[—]	[—]					
志願者数			1,031	—	1,138	—	849	—	743	—					
			(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)					
			[—]	[—]	[—]	[—]	[—]	[—]	[—]	[—]					
受験者数			996	—	1,095	—	820	—	701	—					
			(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)					
			[—]	[—]	[—]	[—]	[—]	[—]	[—]	[—]					
合格者数			140	—	181	—	220	—	224	—					
			(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)					
			[—]	[—]	[—]	[—]	[—]	[—]	[—]	[—]					
B 入学者数			84	—	84	—	86	—	91	—					
			(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)					
			[—]	[—]	[—]	[—]	[—]	[—]	[—]	[—]					
入学定員超過率 B/A			1.05		1.05		1.07		1.13						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和4年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次			84 [-] (-)	— [-] (-)	85 [-] (-)	— [-] (-)	86 [-] (-)	— [-] (-)	91 [-] (-)		
2年次					80 [-] (-)	— [-] (-)	86 [-] (-)	— [-] (-)	86 [-] (-)		
3年次							77 [-] (-)	— [-] (-)	85 [-] (-)		
4年次									73 [-] (-)		
計			84 [-] (-)		165 [-] (-)		249 [-] (-)		335 [-] (-)		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
令和元年度	84 人	3 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	3 人	0 人	就学意欲の低下(1人)、他大学への入学(1人) 健康上の理由(1人)
令和2年度	165 人	2 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	2 人	0 人	就学意欲の低下(2人)
			令和2年度	0 人	0 人	
令和3年度	249 人	2 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	2 人	0 人	就職(1人)、勉学意欲の喪失(1人)
			令和3年度	0 人	0 人	
令和4年度	337 人	0 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
合 計		7 人		7 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{84} = \boxed{3.57} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{165} = \boxed{1.21} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{249} = \boxed{0.8} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{337} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<看護学部 看護学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎教育科目	仏教Ⅰ(瞑想)	1 前	1								1		
	仏教Ⅱ(写経)	1 後	1								1		
	仏教概説	1 前	2								1		
	現代社会と人権	1 後	2								1		
	小計(4科目)	-	6									3	
共通教育科目	生命と環境	生命の科学	1 前	2								1	
		環境の科学	1 前	2								1	
		生物学	1 前	2								1	
		科学技術と社会	1 後	2								2	
	こころと思想	仏教実践演習	2 後	2								1	
		聖徳太子概説	2 前	2								1	
		心理学Ⅰ	1 前	2								1	
		心理学Ⅱ	1 後	2								1	
		哲学入門	1 前	2								1	
		現代思想入門	1 後	2								1	
		構造主義入門	2 前	2								1	
		社会と文化	現代社会と仏教	2 前	2								1
	日本国憲法		1 前	2								1	
	法学入門		1 後	2								1	
	政治学		1 前	2								1	
	文化人類学		2 後	2								1	
	ジェンダーの社会学		1 後	2								1	
	仏教芸術入門		2 後	2								1	
	現代日本の文化と社会		1 前	2								1	
	地域活性化概論		2 前	2								1	
	健康と福祉		スポーツⅠ	1 前	1								2
		スポーツⅡ	1 後	1								2	
		体育講義	1 前	2								1	
		社会福祉概論	1 前	2								1	
		社会福祉行政	2 前	2								1	
		児童福祉論	1 後	2								1	
		老人福祉論	2 後	2								1	
		障害者福祉	2 後	2								1	
		レクリエーション論	2 前	2								1	
		情報科学	情報処理演習Ⅰ	1 前	2								1
	情報処理演習Ⅱ		1 後	2								1	
	情報システム		2 前	2								1	
	データ収集分析		2 後	2								1	
	情報社会の法と倫理(リテラシー含む)		2 前	2								1	
	統計学		2 前	2								1	
	先端技術		1 後	2								2	
	語学・情報科学科目		グローバルコミュニケーション	上級英語Ⅰ	1 前	1							
		上級英語Ⅱ		1 後	1								1
		上級英語Ⅲ(医療英語)		2 前	1								1
		上級英語Ⅳ(英語論文読解)		2 後	1								1
		その他	ドイツ語Ⅰ	1 前	1								1
			ドイツ語Ⅱ	1 後	1								1
			フランス語Ⅰ	1 前	1								1
			フランス語Ⅱ	1 後	1								1
			中国語Ⅰ	1 前	1								1
			中国語Ⅱ	1 後	1								1
			韓国語Ⅰ	1 前	1								1
			韓国語Ⅱ	1 後	1								1
小計(48科目)			-	8	74	0	0	0	0	0	0	0	33

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
健康科学科目	身体のしくみと働き 疾病からの回復過程	人体の構造と機能 I	1前	2								1
		人体の構造と機能 II	1前	2								1
		病態生理学	1後	2								1
		栄養と代謝	1後	2								1
		臨床心理学	1後	2								1
	健康と生活	疾病と治療 I	1後	2								1
		疾病と治療 II	1後	2								1
		疾病と治療 III	2前	1								1
		薬理学	2前	2								1
		生活健康論	1前	1			1					
	社会保障と健康政策	精神保健	2前	2								
		疫学	2後	2								1
		保健行動論	1後	2				1				
		社会保障制度	1後	2								1
		国際保健学	2前	2								1
専門教育科目	看護の基盤	保健統計学	2後	2								1
		医療と経済	3前	2								1
		保健行政論	1後	2								1
		看護概論	1前	2			1					
		看護の歴史	2前	2								1
	療養生活支援看護	生活支援論	1前	2			1					
		ライフサイクルにおける発達課題と健康	1前	1				1				
		看護と倫理	2前	2			1					
		コミュニケーション論	1後	1					1			
		初期実習 I (生活をみる)	1前	1			9	7	6	7		
		初期実習 II (コミュニケーションの実践)	1前	1			9	7	6	7		
		大学基礎演習(看護基礎ゼミ)	1前	1			9	7	6	1		
		療養生活支援論(成人・高齢者)	2後	2			2					
		フィジカルアセスメント	1後	1			1	2	1			
		生活支援技術演習	2前	1			1	2	1			
女性の健康と成育支援看護	看護治療技術演習	2前	1			2	1	1	1			
	療養生活支援技術演習 I	3前	3			2	1	1	1			
	療養生活支援技術演習 II	3前	2			1	1	1	1			
	療養生活支援基礎実習	2後	2			1	7	6	7			
	療養生活支援実習 I (急性・回復期)	3後	2			2	1	1	1			
	療養生活支援実習 II (慢性期)	3後	2			2	1	1	3	1		
	療養生活支援実習 III (老化に伴う健康課題)	3後	2			1	1	1	1	1		
	女性の発達課題と健康	2後	1			1						
	母性生活支援技術演習	3前	2			1	1	1	2			
	母性生活支援実習	3後	2			1	1	1	2	1		
コミュニケーションにおける継続的な看護	成育生活支援論	2後	1			1						
	成育療養生活支援技術演習	3前	2			1		2				
	成育療養生活支援実習	3後	2			1		2	2	1		
	在宅療養生活支援論	2前	1			1						
	在宅療養生活支援技術演習	2後	2			1			1			
	ケースマネジメントと多職種連携	3前	2			1						
	精神健康と生活支援	2後	1			1						
	精神療養生活支援技術演習	3前	2			1		1	2			
	家族の健康課題と生活支援	2前	1			1						
	産業保健論	2後	2				1					
看護科学科目	学校保健論	2前	2								1	
	グローバルヘルスと国際看護	4前	2				1					
	災害看護支援論	2後	2			1						
	在宅療養生活支援実習	3後	2			1	7	6	7			
	精神療養生活支援実習	3後	2			1		1	2	1		
	災害看護支援技術演習	4通	1			1	1					
	国際看護フィールドワーク	4通	1			1	1					

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	疾病予防の看護 地域生活支援論	2前	2			1							
		3前		2		1	1		1				
		3後		1		1	1		1				
		4前		1		1	1		1				
		2後		2		1	1		1				
	看護の探求と統合	看護研究法	3前	2			1						
		課題研究	4通	2			9	7	6	7			
		キャリアマネジメント	2後	1								1	
		看護政策	4後	1								1	
		看護システムマネジメント論	3前	2								1	
		看護管理実習	3後	2			1	7	6	7			
	統合実習	4通	3			9	7	6	7				
	助産師コース	地域生活支援実習	4前		5		1	1		1			
		助産概論	3前		2		1	1					
		周産期医学	3前		2							1	
		助産診断・技術Ⅰ	3後		2		1		1				
		助産診断・技術Ⅱ	4前		2		1		1				
		助産診断・技術Ⅲ	4前		2		1		1				
		助産技術演習Ⅰ	3後		1		1	1	1	2			
		助産技術演習Ⅱ	4前		1		1	1	1	2			
		助産管理論	4後		1		1	1					
		助産実習	4前		11		1	1	1	2			
	養護教諭コース	養護概説	2後		2							1	
		健康相談	3前		2							1	
		養護実習	4前		5							1	
	小計(82科目)				95	62	0	10	7	6	6	2	14
	合計(134科目)			-	109	136	0	10	7	6	6	2	42

卒業要件及び履修方法

基礎教育科目6単位、教養教育科目8単位以上、語学・情報科学科目10単位以上、健康科学科目28単位以上、看護科学科目74単位以上(「災害看護支援技術演習」「国際看護フィールドワーク」のどちらかを修得)の条件を全て満たして、合計126単位以上取得することが卒業要件となる。学年ごとの履修単位数上限は48単位とする。(教職に関する科目は履修単位数上限を超えて履修することができる)

なお、保健師コースを選択する場合は、「疫学」「保健統計学」「保健行政論」「産業保健論」「学校保健論」「地域生活支援技術論」「地域生活支援技術演習Ⅰ」「地域生活支援技術演習Ⅱ」「健康教育論」「地域生活支援実習」を修得すること。(合計141単位以上)

助産師コースを選択する場合は、「助産概論」「周産期医学」「助産診断・技術Ⅰ」「助産診断・技術Ⅱ」「助産診断・技術Ⅲ」「助産技術演習Ⅰ」「助産技術演習Ⅱ」「助産管理論」「助産実習」を修得すること。(合計150単位以上)

養護教諭コースを選択する場合は、「日本国憲法」「スポーツⅠ」「スポーツⅡ」「情報処理演習ⅠまたはⅡ」「疫学」「学校保健論」「養護概説」「健康相談」「養護実習」と学則に定める教職に関する科目を修得すること。(合計161単位以上)

【令和4年度】（旧カリキュラム）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1前	1								1	
	和の精神Ⅱ	1後	1								1	
	仏教概説	1後	2								1	
	現代社会と人権	1前	2								1	
	小計(4科目)	-	6								3	
教養教育科目	生命と環境	生命の科学	1後	2							1	
		環境の科学	1後	2							1	
		生物学	1前	2							1	
		科学技術と社会(未開講)	1後	2							2	
	こころと思想	仏教実践演習	2前	2								3
		聖徳太子概説	2後	2								1
		心理学Ⅰ	1前	2								1
		心理学Ⅱ	1後	2								1
		哲学入門(未開講)	1前	2								1
		現代思想入門	1前	2								1
構造主義入門		2後	2								1	
社会と文化	現代社会と仏教	2前	2								1	
	日本国憲法	1前	2								1	
	法学入門	1後	2								1	
	政治学(未開講)	1前	2								1	
	文化人類学	2後	2								1	
	ジェンダーの社会学	1前	2								1	
	仏教芸術入門(未開講)	2後	2								1	
	現代日本の文化と社会	1後	2								1	
	地域活性化概論	2前	2								6	
健康と福祉	スポーツⅠ	1前	1								4	
	スポーツⅡ	1後	1								3	
	体育講義(未開講)	1前	2								1	
	社会福祉概論	1前	2								1	
	社会福祉行政	2前	2								1	
	児童福祉論	1後	2								1	
	老人福祉論	2後	2								1	
	障害者福祉	2後	2								1	
レクリエーション論(未開講)	2前	2								1		
情報科学	情報処理演習Ⅰ	1前	2								1	
	情報処理演習Ⅱ	1後	2								2	
	情報システム	2後	2								1	
	データ収集分析	2後	2								2	
	情報社会の法と倫理(リテラシー含む)	2後	2								1	
	統計学	2前	2								1	
	先端技術	1前	2								2	
語学・情報科学科目	グローバルコミュニケーション	上級英語Ⅰ	1前	1								3
		上級英語Ⅱ	1後	1								3
		上級英語Ⅲ(医療英語)	2前	1								3
		上級英語Ⅳ(英語論文読解)	2後	1								3
	ドイツ語Ⅰ	1前	1								1	
	ドイツ語Ⅱ	1後	1								1	
	フランス語Ⅰ(未開講)	1前	1								1	
	フランス語Ⅱ	1後	1								1	
	中国語Ⅰ	1前	1								1	
	中国語Ⅱ	1後	1								1	
	コリア語Ⅰ(未開講)	1前	1								1	
コリア語Ⅱ	1後	1								1		
	小計(48科目)		8	74	0	0	0	0	0	0	49	

【令和4年度】（新カリキュラム）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1前	1								1	
	和の精神Ⅱ	1後	1								1	
	仏教概説	1後	2								1	
	現代社会と人権	1前	2								1	
	小計(4科目)	-	6								3	
教養教育科目	生命と環境	生命の科学	1後	2							1	
		環境の科学	1後	2							1	
		生物学	1前	2							1	
		科学技術と社会(未開講)	1後	2							2	
	こころと思想	仏教実践演習	2前	2								3
		聖徳太子概説	2後	2								1
		心理学Ⅰ	1前	2								1
		心理学Ⅱ	1後	2								1
		哲学入門(未開講)	1前	2								1
		現代思想入門	1前	2								1
構造主義入門		2後	2								1	
社会と文化	現代社会と仏教	2前	2								1	
	日本国憲法	1前	2								1	
	法学入門	1後	2								1	
	政治学(未開講)	1前	2								1	
	文化人類学	2後	2								1	
	ジェンダーの社会学	1前	2								1	
	仏教芸術入門(未開講)	2後	2								1	
	現代日本の文化と社会	1後	2								1	
	地域活性化概論	2前	2								6	
健康と福祉	スポーツⅠ	1前	1								4	
	スポーツⅡ	1後	1								3	
	体育講義(未開講)	1前	2								1	
	社会福祉概論	1前	2								1	
	社会福祉行政	2前	2								1	
	児童福祉論	1後	2								1	
	老人福祉論	2後	2								1	
	障害者福祉	2後	2								1	
レクリエーション論	2前	2								1		
情報科学	情報処理演習Ⅰ	1前	2								1	
	情報処理演習Ⅱ	1後	2								2	
	情報システム	2後	2								1	
	データ収集分析	2後	2								2	
	情報社会の法と倫理(リテラシー含む)	2後	2								1	
	統計学	2前	2								1	
	先端技術	1前	2								2	
語学・情報科学科目	グローバルコミュニケーション	上級英語Ⅰ	1前	1								3
		上級英語Ⅱ	1後	1								3
		上級英語Ⅲ(医療英語)	2前	1								2
		上級英語Ⅳ(英語論文読解)	2後	1								2
	ドイツ語Ⅰ	1前	1								1	
	ドイツ語Ⅱ	1後	1								1	
	フランス語Ⅰ(未開講)	1前	1								1	
	フランス語Ⅱ	1後	1								1	
	中国語Ⅰ	1前	1								1	
	中国語Ⅱ	1後	1								1	
	コリア語Ⅰ(未開講)	1前	1								1	
コリア語Ⅱ	1後	1								1		
	小計(48科目)		8	74	0	0	0	0	0	0	45	

【令和4年度】（旧カリキュラム）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
健康科学科目	身体のしくみと働き 疾病からの回復過程	人体の構造と機能 I	1前	2								1	
		人体の構造と機能 II	1前	2								1	
		病態生理学	1後	2								1	
		栄養と代謝	1後	2								1	
		臨床心理学	1後	2								1	
	健康と生活	疾病と治療 I	1後	2								1	
		疾病と治療 II	1後	2								2	
		疾病と治療 III	2前	1								1	
		薬理学	2前	2								1	
		生活健康論	1前	1			1						1
	社会保障と健康政策	精神保健	2前	2			1						1
		疫学	2後	2									1
		保健行動論	1後	2									1
		社会保障制度	1後	2									1
		国際保健学	2前	2									1
専門教育科目	看護の基盤	看護概論	1前	2			1						1
		看護の歴史	2前	2			1						
		生活支援論	1前	2				1					
		ライフサイクルにおける発達課題と健康	1前	1				1					
		看護と倫理	2前	2			1						
		コミュニケーション論	1後	1					1				
		初期実習 I (生活をみる)	1前	1			10	5	5	8			
		初期実習 II (コミュニケーションの実践)	1前	1			10	5	5	8			
	療養生活支援看護	大学基礎演習 (看護基礎ゼミ)	1前	1			10	5	5	2			
		療養生活支援論 (成人・高齢者)	2後	2			2						
		フィジカルアセスメント	2後	1			1	1	1	1			
		生活支援技術演習	2前	1			1	1	1	1			
		看護治療技術演習	2前	1			2	1	1	1			
		療養生活支援技術演習 I	3前	3			2	1	1	1			
		療養生活支援技術演習 II	3前	2			1	1	1	1			
女性の健康と成育支援看護	療養生活支援基礎実習	2後	2			1	5	5	8				
	療養生活支援実習 I (急性・回復期)	3後	2			2	1	1	1				
	療養生活支援実習 II (慢性期)	3後	2			2	1	3	1				
	療養生活支援実習 III (老化に伴う健康課題)	3後	2			1	1	1	1				
	女性の発達課題と健康	2後	1				1						
	母性生活支援技術演習	3前	2			1	1	1	2				
	母性生活支援実習	3後	2			1	1	1	2	1			
看護科学科目	コミュニケーションにおける継続的な看護	成育生活支援論	2後	1			1		2				
		成育療養生活支援技術演習	3前	2			1		2			2	
		成育療養生活支援実習	3後	2			1		2	2	1		
		在宅療養生活支援論	2前	1			2						
		在宅療養生活支援技術演習	2後	2			2			1			
	在宅療養生活支援看護	ケースマネジメントと多職種連携	3前	2			1						
		精神健康と生活支援	2後	1			1						
		精神療養生活支援技術演習	3前	2			1		1	2			
		家族の健康課題と生活支援	2前	1			2						
		産業保健論	2後	2								1	
		学校保健論	2前	2								1	
		グローバルヘルスと国際看護	4前	2				1					
		災害看護支援論	2後	2				1					
		在宅療養生活支援実習	3後	2			2	5	5	7			
		精神療養生活支援実習	3後	2			1	1	1	2	1		
災害看護支援技術演習	4通	1				1							
国際看護フィールドワーク (未開講)	4通	1				1							

【令和4年度】（新カリキュラム）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
健康科学科目	身体のしくみと働き 疾病からの回復過程	人体の構造と機能 I	1前	2									1	
		人体の構造と機能 II	1前	2									1	
		病態生理学	1後	2									1	
		栄養と代謝	1後	2									1	
		臨床心理学	1後	2									1	
	健康と生活	疾病と治療 I	1後	2									1	
		疾病と治療 II	1後	2									2	
		疾病と治療 III	2前	1									1	
		薬理学	2前	2									1	
		生活健康論	1前	1				1						
	社会保障と健康政策	精神保健	2前	2					1					1
		疫学	2後	2										1
		保健行動論	1後	2										1
		社会保障制度	1後	2										1
		国際保健学	2前	2										1
専門教育科目	看護の基盤	看護概論	1前	2				1						1
		看護の歴史	2前	2										
		生活支援論	1前	2						1				
		ライフサイクルにおける発達課題と健康	1前	1				1						
		看護と倫理	2前	2										
		コミュニケーション論	1後	1							1			
		初期実習 I (生活をみる)	1前	1					10	5	5	8		
		初期実習 II (コミュニケーションの実践)	1前	1					10	5	5	8		
	療養生活支援看護	大学基礎演習 (看護基礎ゼミ)	1前	1					10	5	5	2		
		療養生活支援論 (成人・高齢者)	2後	2					1					
		フィジカルアセスメント	2後	2							1	1		
		生活支援技術演習	2前	1							1	1		
		看護治療技術演習	2前	1					2	1	1	1		
		療養生活支援技術演習 I	3前	3					2	1				
		療養生活支援技術演習 II	3前	2						1				
女性の健康と成育支援看護	療養生活支援基礎実習	2後	2						4	5	8			
	療養生活支援実習 I (急性・回復期)	3後	2					2	1					
	療養生活支援実習 II (慢性期)	3後	2					2	1		1	1		
	療養生活支援実習 III (老化に伴う健康課題)	3後	2						1				1	
	女性の発達課題と健康	2後	1						1					
	母性生活支援技術演習	3前	2					1	1	2				
	母性生活支援実習	3後	2					1	1	2	1			
看護科学科目	コミュニケーションにおける継続的な看護	成育生活支援論	2後	1							2			
		成育療養生活支援技術演習	3前	2									2	
		成育療養生活支援実習	3後	2										
		在宅療養生活支援論	2前	1										
		在宅療養生活支援技術演習	2後	2										
	在宅療養生活支援看護	ケースマネジメントと多職種連携	3前	2					1					
		精神健康と生活支援	2後	1					1					
		精神療養生活支援技術演習	3前	2					1		1	1		
		家族の健康課題と生活支援	2前	1					2					
		産業保健論	2後	2						2				
		学校保健論	2前	2										1
		グローバルヘルスと国際看護	4前	2							1			
		災害看護支援論	2後	2						1				
		在宅療養生活支援実習	3後	2					2	4	5	3		
		精神療養生活支援実習	3後	2					1	1	1	1		
災害看護支援技術演習	4通	1						1						
国際看護フィールドワーク	4通	1						1						

【令和4年度】（旧カリキュラム）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	健康の増進と看護	地域生活支援論	2前	2			1					
		地域生活支援技術論	3前		2		1			1		
		地域生活支援技術演習Ⅰ	3後		1		1			1		
		地域生活支援技術演習Ⅱ	4前		1		1			1		
		健康教育論	2後		2		1			1		
	看護の探求と統合	看護研究法	3前		2		1					
		課題研究	4通		2		10	5	5	7		
		キャリアマネジメント	2後		1							1
		看護政策	4後		1		1					
		看護システムマネジメント論	3前		2							1
		看護管理実習	3後		2		1	5	5	8		
	統合実習	4通		3		10	5	5	8			
	助産師コース	地域生活支援実習	4前		5		1			1	1	
		助産概論	3前		2		1	1				
		周産期医学	3前		2							1
		助産診断・技術Ⅰ	3後		2		1		1			
		助産診断・技術Ⅱ	4前		2		1		1			
		助産診断・技術Ⅲ	4前		2		1		1			
		助産技術演習Ⅰ	3後		1		1	1	1	2		
		助産技術演習Ⅱ	4前		1		1	1	1	2		
		助産管理論	4後		1		1	1				
助産実習		4前		11		1	1	1	2			
看護教諭コース	養護概説	2後		2							1	
	健康相談	3前		2							1	
	養護実習	4前		5							1	
小計(82科目)				95	62	0	10	5	5	8	2	21
合計(134科目)			-	109	136	0	10	5	5	8	2	73

卒業要件及び履修方法

基礎教育科目6単位、教養教育科目8単位以上、語学・情報科学科目10単位以上、健康科学科目28単位以上、看護科学科目74単位以上(「災害看護支援技術演習」「国際看護フィールドワーク」のどちらかを修得)の条件を全て満たして、合計126単位以上取得することが卒業要件となる。学年ごとの履修単位数上限は48単位とする。(教職に関する科目は履修単位数上限を超えて履修することができる)

なお、保健師コースを選択する場合は、「疫学」「保健統計学」「保健行政論」「産業保健論」「学校保健論」「地域生活支援技術論」「地域生活支援技術演習Ⅰ」「地域生活支援技術演習Ⅱ」「健康教育論」「地域生活支援実習」を修得すること。(合計141単位以上)

助産師コースを選択する場合は、「助産概論」「周産期医学」「助産診断・技術Ⅰ」「助産診断・技術Ⅱ」「助産診断・技術Ⅲ」「助産技術演習Ⅰ」「助産技術演習Ⅱ」「助産管理論」「助産実習」を修得すること。(合計150単位以上)

養護教諭コースを選択する場合は、「日本国憲法」「スポーツⅠ」「スポーツⅡ」「情報処理演習ⅠまたはⅡ」「疫学」「学校保健論」「養護概説」「健康相談」「養護実習」と学則に定める教職に関する科目を修得すること。(合計161単位以上)

【令和4年度】（新カリキュラム）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	健康の増進と看護	地域生活支援論Ⅰ	2前	2			1					
		地域生活支援論Ⅱ	3前		2							
		地域生活支援技術論	3前		2							
		地域生活支援技術演習Ⅰ	3後		1							
		地域生活支援技術演習Ⅱ	4前		1							
	健康教育論	2後		2						1		
	看護の探求と統合	看護研究法	3前		2							
		課題研究	4通		2			5	4	5	2	
		キャリアマネジメント	2後		1							
		看護政策	4後		1							
		看護システムマネジメント論	3前		2							1
		看護管理実習	3後		2				4	5	4	
	統合実習	4通		3			5	4	5	3		
	助産師コース	地域生活支援実習	4前		5							
		助産学概論	3前		2			1				
		周産期医学	3後		2							1
		助産診断・技術Ⅰ	3後		3				1			
		助産診断・技術Ⅱ	4前		2				1			
		助産診断・技術Ⅲ	4前		3				1			
		助産技術学演習Ⅰ	3後		1			1	1	2		
		助産技術学演習Ⅱ	4前		1			1	1	1		
地域母子保健		4後		1								
助産管理論		4後		1			1					
助産実習	4前		11			1	1	1	1			
看護教諭コース	養護概説	2後		2							1	
	健康相談	3前		2							1	
	養護実習	4前		5							1	
小計(84科目)				95	69	0	10	5	5	8	2	18
合計(136科目)			-	109	143	0	10	5	5	8	2	66

卒業要件及び履修方法

基礎教育科目6単位、教養教育科目8単位以上、語学・情報科学科目10単位以上、健康科学科目28単位以上、看護科学科目74単位以上(「災害看護支援技術演習」「国際看護フィールドワーク」のどちらかを修得)の条件を全て満たして、合計126単位以上取得することが卒業要件となる。学年ごとの履修単位数上限は48単位とする。(教職に関する科目は履修単位数上限を超えて履修することができる)

なお、保健師コースを選択する場合は、「疫学」「保健統計学」「保健行政論」「産業保健論」「学校保健論」「地域生活支援論Ⅱ」「地域生活支援技術論」「地域生活支援技術演習Ⅰ」「地域生活支援技術演習Ⅱ」「健康教育論」「地域生活支援実習」を修得すること。(合計144単位以上)

助産師コースを選択する場合は、「助産学概論」「周産期医学」「助産診断・技術Ⅰ」「助産診断・技術Ⅱ」「助産診断・技術Ⅲ」「助産技術学演習Ⅰ」「助産技術学演習Ⅱ」「地域母子保健」「助産管理論」「助産実習」を修得すること。(合計152単位以上)

養護教諭コースを選択する場合は、「日本国憲法」「スポーツⅠ」「スポーツⅡ」「情報処理演習ⅠまたはⅡ」「疫学」「学校保健論」「養護概説」「健康相談」「養護実習」と学則に定める教職に関する科目を修得すること。(合計161単位以上)

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1前	1								1
	和の精神Ⅱ	1後	1								1
	仏教概説	1後	2								1
	現代社会と人権	1前	2								1
	小計(4科目)	-	6								
教養教育科目	生命と環境	生命の科学	1後	2							1
		環境の科学	1前	2							1
		生物学	1前	2							1
		科学技術と社会(未開講)	1後	2							2
	こころと思想	仏教実践演習	2前	2							3
		聖徳太子概説	2後	2							1
		心理学Ⅰ	1前	2							1
		心理学Ⅱ	1後	2							1
		哲学入門	1前	2							1
		現代思想入門	1前	2							1
	社会と文化	構造主義入門	2後	2							1
		現代社会と仏教	2前	2							1
日本国憲法		1前	2							1	
法学入門		1後	2							1	
政治学		1前	2							1	
文化人類学		2後	2							1	
ジェンダーの社会学		1前	2							1	
仏教芸術入門(未開講)		2後	2							1	
健康と福祉	現代日本の文化と社会	1後	2							1	
	地域活性化概論	2前	2							6	
	スポーツⅠ	1前	1							4	
	スポーツⅡ	1後	1							3	
	体育講義(未開講)	1前	2							1	
	社会福祉概論	1前	2							1	
	社会福祉行政	2前	2							1	
	児童福祉論	1後	2							1	
	老人福祉論	2後	2							1	
	障害者福祉	2後	2							1	
情報科学	レクリエーション論	2前	2							1	
	情報処理演習Ⅰ	1前	2							1	
	情報処理演習Ⅱ	1後	2							2	
	情報システム	2後	2							1	
	データ収集分析(未開講)	2後	2							1	
	情報社会の法と倫理(リテラシー含む)	2後	2							1	
	統計学	2前	2							1	
	先端技術	1前	2							2	
語学・情報科学科目	グローバルコミュニケーション	上級英語Ⅰ	1前	1							2
		上級英語Ⅱ	1後	1							2
		上級英語Ⅲ(医療英語)	2前	1							2
		上級英語Ⅳ(英語論文読解)	2後	1							2
	ドイツ語	ドイツ語Ⅰ	1前	1							1
		ドイツ語Ⅱ	1後	1							1
		フランス語Ⅰ	1前	1							1
		フランス語Ⅱ	1後	1							1
		中国語Ⅰ	1前	1							1
		中国語Ⅱ	1後	1							1
		韓国語Ⅰ	1前	1							1
		韓国語Ⅱ	1後	1							1
	小計(48科目)	-	8	74	0	0	0	0	0	0	49

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1後	1								1
	和の精神Ⅱ	2前	1								1
	仏教概説	1後	2								1
	現代社会と人権	1前	2								1
	小計(4科目)	-									3
教養教育科目	生命と環境	生命の科学	1後	2							1
		環境の科学	1前	2							1
		生物学	1前	2							1
		科学技術と社会(未開講)	1後	2							2
	こころと思想	仏教実践演習	2前	2							3
		聖徳太子概説	2後	2							1
		心理学Ⅰ	1前	2							1
		心理学Ⅱ	1後	2							1
		哲学入門	1前	2							1
		現代思想入門	1前	2							1
	社会と文化	構造主義入門	2後	2							1
		現代社会と仏教	2前	2							1
日本国憲法		1前	2							1	
法学入門		1前	2							1	
政治学		1前	2							1	
文化人類学		2後	2							1	
ジェンダーの社会学		1前	2							1	
仏教芸術入門(未開講)		2後	2							1	
健康と福祉	現代日本の文化と社会	1後	2							1	
	地域活性化概論	2前	2							6	
	スポーツⅠ	1前	1							3	
	スポーツⅡ	1後	1							3	
	体育講義(未開講)	1前	2							1	
	社会福祉概論	1前	2							1	
	社会福祉行政	2前	2							1	
	児童福祉論	1後	2							1	
	老人福祉論	2後	2							1	
	障害者福祉	2後	2							1	
情報科学	レクリエーション論	2前	2							1	
	情報処理演習Ⅰ	1前	2							2	
	情報処理演習Ⅱ	1後	2							3	
	情報システム	2後	2							1	
	データ収集分析(未開講)	2後	2							1	
	情報社会の法と倫理(リテラシー含む)	2後	2							1	
	統計学	2前	2							1	
	先端技術	1前	2							2	
語学・情報科学科目	グローバルコミュニケーション	上級英語Ⅰ	1前	1							3
		上級英語Ⅱ	1後	1							3
		上級英語Ⅲ(医療英語)	2前	1							3
		上級英語Ⅳ(英語論文読解)	2後	1							3
	ドイツ語	ドイツ語Ⅰ	1前	1							1
		ドイツ語Ⅱ	1後	1							1
		フランス語Ⅰ	1前	1							1
		フランス語Ⅱ	1後	1							1
		中国語Ⅰ	1前	1							1
		中国語Ⅱ	1後	1							1
		韓国語Ⅰ	1前	1							1
		韓国語Ⅱ	1後	1							1
	小計(48科目)	-	8	74	0	0	0	0	0	0	51

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
健康科学科目	身体のしくみと働き	人体の構造と機能 I	1前	2								1
		人体の構造と機能 II	1前	2								1
		病態生理学	1後	2								1
		栄養と代謝	1後	2								1
		臨床心理学	1後	2								1
	疾病からの回復過程	疾病と治療 I	1後	2								1
		疾病と治療 II	1後	2								2
		疾病と治療 III	2前	1								1
		薬理学	2前	2								1
	健康と生活	生活健康論	1前	1		1						
		精神保健	2前	2		1						
		疫学	2後	2				1				1
		保健行動論	1後	2								
		社会保障と健康政策	1後	2								1
	専門教育科目	看護の基盤	看護概論	1前	2		1					
看護の歴史			2前	2								1
生活支援論			1前	2		1						
ライフサイクルにおける発達課題と健康			1前	1			1					
看護と倫理			2前	2		1						
コミュニケーション論			1後	1				1				
初期実習 I (生活をみる)			1前	1		9	7	6	7			
療養生活支援看護		初期実習 II (コミュニケーションの実践)	1前	1		9	7	6	7			
		大学基礎演習(看護基礎ゼミ)	1前	1		9	7	6	1			
		療養生活支援論(成人・高齢者)	2後	2		2						
		フィジカルアセスメント	2後	1		1	2	1				
		生活支援技術演習	2前	1		1	2	1				
		看護治療技術演習	2前	1		2	1	1	1			
		療養生活支援技術演習 I	3前	3		2	1	1	1			
		療養生活支援技術演習 II	3前	2		1	1	1	1			
女性の発達課題と健康	療養生活支援基礎実習	2後	2		1	7	6	7				
	療養生活支援実習 I (急性・回復期)	3後	2		2	1	1	1				
	療養生活支援実習 II (慢性期)	3後	2		2	1	1	3	1			
	療養生活支援実習 III (老化に伴う健康課題)	3後	2		1	1	1	1	1			
	母性生活支援技術演習	3前	2		1	1	1	2				
	母性生活支援実習	3後	2		1	1	1	2	1			
	成人生活支援論	2後	1		1							
看護科学科目	在宅療養生活支援看護	成人療養生活支援技術演習	3前	2		1		2				
		成人療養生活支援実習	3後	2		1		2	2	1		
		在宅療養生活支援論	2前	1		1						
		在宅療養生活支援技術演習	2後	2		1			1			
	コミュニティにおける継続的な看護	ケースマネジメントと多職種連携	3前	2		1						
		精神健康と生活支援	2後	1		1						
		精神療養生活支援技術演習	3前	2		1		1	2			
		家族の健康課題と生活支援	2前	1		1						
		産業保健論	2後	2			1					
		学校保健論	2前	2								1
		グローバルヘルスと国際看護	4前	2			1					
		災害看護支援論	2後	2		1						
在宅療養生活支援実習	3後	2		1	7	6	7					
精神療養生活支援実習	3後	2		1		1	2	1				
災害看護支援技術演習	4通	1		1	1							
国際看護フィールドワーク	4通	1		1	1							

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
健康科学科目	身体のしくみと働き	人体の構造と機能 I	1前	2								1
		人体の構造と機能 II	1前	2								1
		病態生理学	1後	2								1
		栄養と代謝	1後	2								1
		臨床心理学	1後	2								1
	疾病からの回復過程	疾病と治療 I	1後	2								1
		疾病と治療 II	1後	2								2
		疾病と治療 III	2前	1								1
		薬理学	2前	2								1
	健康と生活	生活健康論	1前	1			2					
		精神保健	2前	2			1					
		疫学	2後	2						1		1
		保健行動論	1後	2								
		社会保障と健康政策	1後	2								1
	専門教育科目	看護の基盤	看護概論	1前	2			2				
看護の歴史			2後	2								1
生活支援論			1前	2		1	1					
ライフサイクルにおける発達課題と健康			1前	1			1					
看護と倫理			2前	2		1						
コミュニケーション論			1後	1						1		
初期実習 I (生活をみる)			1前	1		11	7	6	7			
療養生活支援看護		初期実習 II (コミュニケーションの実践)	1前	1		11	7	6	7			
		大学基礎演習(看護基礎ゼミ)	1前	1		10	7	6	1			
		療養生活支援論(成人・高齢者)	2後	2			2					
		フィジカルアセスメント	2後	1		1	2	1				
		生活支援技術演習	2前	1		1	2	1				
		看護治療技術演習	2前	1		2	1	1	1			
		療養生活支援技術演習 I	3前	3		2	1	1	1			
		療養生活支援技術演習 II	3前	2		1	1	1	1			
女性の発達課題と健康	療養生活支援基礎実習	2後	2		1	7	6	7				
	療養生活支援実習 I (急性・回復期)	3後	2		2	1	1	1				
	療養生活支援実習 II (慢性期)	3後	2		2	1	1	3	1			
	療養生活支援実習 III (老化に伴う健康課題)	3後	2		1	1	1	1	1			
	母性生活支援技術演習	3前	2		1	1	1	2				
	母性生活支援実習	3後	2		1	1	1	2	1			
	成人生活支援論	2後	1		1							
看護科学科目	在宅療養生活支援看護	成人療養生活支援技術演習	3前	2		1		2				
		成人療養生活支援実習	3後	2		1		2	2	1		
		在宅療養生活支援論	2前	1		1						
		在宅療養生活支援技術演習	2後	2		1						
	コミュニティにおける継続的な看護	ケースマネジメントと多職種連携	3前	2		1						
		精神健康と生活支援	2後	1		1						
		精神療養生活支援技術演習	3前	2		1		1	2			
		家族の健康課題と生活支援	2前	1		1						
		産業保健論	2後	2			1					
		学校保健論	2前	2								1
		グローバルヘルスと国際看護	4前	2						1		
		災害看護支援論	2後	2		1			1			
在宅療養生活支援実習	3後	2		1	7	6	7	5	7			
精神療養生活支援実習	3後	2		1		1	2	1	3	1		
災害看護支援技術演習	4通	1		1	1							
国際看護フィールドワーク	4通	1		1	1							

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	健康の増進と看護	地域生活支援論	2前	2			1						
		地域生活支援技術論	3前		2		1	1		1			
		地域生活支援技術演習Ⅰ	3後		1		1	1		1			
		地域生活支援技術演習Ⅱ	4前		1		1	1		1			
		健康教育論	2後		2		1	1		1			
	看護の探求と統合	看護研究法	3前		2		1						
		課題研究	4通		2		9	7	6	7			
		キャリアマネジメント	2後		1							1	
		看護政策	4後		1							1	
		看護システムマネジメント論	3前		2							1	
	地域生活支援実習	看護管理実習	3後		2		1	7	6	7			
		統合実習	4通		3		9	7	6	7			
		地域生活支援実習	4前		5		1	1		1			
		助産師コース	助産概論	3前		2		1	1				
			周産期医学	3前		2							1
	助産診断・技術Ⅰ		3後		2		1		1				
	助産診断・技術Ⅱ		4前		2		1		1				
	助産診断・技術Ⅲ		4前		2		1		1				
	助産技術演習Ⅰ		3後		1		1	1	1	2			
	助産技術演習Ⅱ		4前		1		1	1	1	2			
助産管理論	4後			1		1	1						
助産実習	4前		11		1	1	1	2					
養護教諭コース	養護概説	2後		2							1		
	健康相談	3前		2							1		
	養護実習	4前		5							1		
小計(82科目)				95	62	0	10	7	6	7	2	15	
合計(134科目)			-	109	136	0	10	7	6	7	2	51	

卒業要件及び履修方法

基礎教育科目6単位、教養教育科目8単位以上、語学・情報科学科目10単位以上、健康科学科目28単位以上、看護科学科目74単位以上(「災害看護支援技術演習」「国際看護フィールドワーク」のどちらかを修得)の条件を全て満たして、合計126単位以上取得することが卒業要件となる。学年ごとの履修単位数上限は48単位とする。(教職に関する科目は履修単位数上限を超えて履修することができる)

なお、保健師コースを選択する場合は、「疫学」「保健統計学」「保健行政論」「産業保健論」「学校保健論」「地域生活支援技術論」「地域生活支援技術演習Ⅰ」「地域生活支援技術演習Ⅱ」「健康教育論」「地域生活支援実習」を修得すること。(合計141単位以上)

助産師コースを選択する場合は、「助産概論」「周産期医学」「助産診断・技術Ⅰ」「助産診断・技術Ⅱ」「助産診断・技術Ⅲ」「助産技術演習Ⅰ」「助産技術演習Ⅱ」「助産管理論」「助産実習」を修得すること。(合計150単位以上)

養護教諭コースを選択する場合は、「日本国憲法」「スポーツⅠ」「スポーツⅡ」「情報処理演習ⅠまたはⅡ」「疫学」「学校保健論」「養護概説」「健康相談」「養護実習」と学則に定める教職に関する科目を修得すること。(合計161単位以上)

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	健康の増進と看護	地域生活支援論	2前	2			1						
		地域生活支援技術論	3前		2		1	1		1			
		地域生活支援技術演習Ⅰ	3後		1		1	1		1			
		地域生活支援技術演習Ⅱ	4前		1		1	1		1			
		健康教育論	2後		2		1	1		1			
	看護の探求と統合	看護研究法	3前		2		1						
		課題研究	4通		2				10	7	6	7	
		キャリアマネジメント	2後		1							1	
		看護政策	4後		1							1	
		看護システムマネジメント論	3前		2							1	
	地域生活支援実習	看護管理実習	3後		2		1	7	6	7			
		統合実習	4通		3					10	7	6	7
		地域生活支援実習	4前		5		1	1			1		
		助産師コース	助産概論	3前		2		1	1				
			周産期医学	3前		2							1
	助産診断・技術Ⅰ		3後		2		1		1				
	助産診断・技術Ⅱ		4前		2		1		1				
	助産診断・技術Ⅲ		4前		2		1		1				
	助産技術演習Ⅰ		3後		1		1	1	1	1	2		
	助産技術演習Ⅱ		4前		1		1	1	1	1	2		
助産管理論	4後			1		1	1						
助産実習	4前		11		1	1	1	1	2				
養護教諭コース	養護概説	2後		2								1	
	健康相談	3前		2								1	
	養護実習	4前		5								1	
小計(82科目)				95	62	0	11	7	6	7	2	12	
合計(134科目)			-	109	136	0	11	7	6	7	2	66	

卒業要件及び履修方法

基礎教育科目6単位、教養教育科目8単位以上、語学・情報科学科目10単位以上、健康科学科目28単位以上、看護科学科目74単位以上(「災害看護支援技術演習」「国際看護フィールドワーク」のどちらかを修得)の条件を全て満たして、合計126単位以上取得することが卒業要件となる。学年ごとの履修単位数上限は48単位とする。(教職に関する科目は履修単位数上限を超えて履修することができる)

なお、保健師コースを選択する場合は、「疫学」「保健統計学」「保健行政論」「産業保健論」「学校保健論」「地域生活支援技術論」「地域生活支援技術演習Ⅰ」「地域生活支援技術演習Ⅱ」「健康教育論」「地域生活支援実習」を修得すること。(合計141単位以上)

助産師コースを選択する場合は、「助産概論」「周産期医学」「助産診断・技術Ⅰ」「助産診断・技術Ⅱ」「助産診断・技術Ⅲ」「助産技術演習Ⅰ」「助産技術演習Ⅱ」「助産管理論」「助産実習」を修得すること。(合計150単位以上)

養護教諭コースを選択する場合は、「日本国憲法」「スポーツⅠ」「スポーツⅡ」「情報処理演習ⅠまたはⅡ」「疫学」「学校保健論」「養護概説」「健康相談」「養護実習」と学則に定める教職に関する科目を修得すること。(合計161単位以上)

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1前	1									1	
	和の精神Ⅱ	1前	1									1	
	仏教概説	1後	2									1	
	現代社会と人権	1前	2									1	
	小計(4科目)	-	4										
共通教育科目	生命と環境	生命の科学	1後	2									1
		環境の科学	1前	2									1
		生物学	1前	2									1
		科学技術と社会(未開講)	1後	2									2
	こころと思想	仏教実践演習	2前	2									3
		聖徳太子概説	2後	2									1
		心理学Ⅰ	1前	2									1
		心理学Ⅱ	1後	2									1
		哲学入門	1前	2									1
		現代思想入門	1前	2									1
		構造主義入門	2後	2									1
	社会と文化	現代社会と仏教	2前	2									1
		日本国憲法	1前	2									1
		法学入門	1後	2									1
		政治学	1前	2									1
		文化人類学	2後	2									1
		ジェンダーの社会学	1前	2									1
		仏教芸術入門(未開講)	2後	2									1
	現代日本の文化と社会	1後	2									1	
	地域活性化概論	2前	2									6	
健康と福祉	スポーツⅠ	1前	1									4	
	スポーツⅡ	1後	1									3	
	体育講義(未開講)	1前	2										
	社会福祉概論	1前	2									1	
	社会福祉行政	2前	2									1	
	児童福祉論	1後	2									1	
	老人福祉論	2後	2									1	
	障害者福祉	2後	2									1	
レクリエーション論	2前	2									1		
情報科学	情報処理演習Ⅰ	1前	2									1	
	情報処理演習Ⅱ	1後	2									2	
	情報システム	2後	2									1	
	データ収集分析(未開講)	2後	2									1	
	情報社会の法と倫理(リテラシー含む)	2後	2									1	
	統計学	2前	2									1	
語学・情報科学科目	先端技術	1前	2									2	
	グローバルコミュニケーション	上級英語Ⅰ	1前	1									2
		上級英語Ⅱ	1後	1									2
		上級英語Ⅲ(医療英語)	2前	1									2
		上級英語Ⅳ(英語論文読解)	2後	1									2
	ドイツ語Ⅰ	1前	1									1	
	ドイツ語Ⅱ	1後	1									1	
	フランス語Ⅰ	1前	1									1	
	フランス語Ⅱ	1後	1									1	
	中国語Ⅰ	1前	1									1	
	中国語Ⅱ	1後	1									1	
	韓国語Ⅰ	1前	1									1	
韓国語Ⅱ	1後	1									1		
	小計(48科目)		8	74	0	0	0	0	0	0	0	49	

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
健康科学科目	身体のしくみと働き	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2								1
		人体の構造と機能Ⅱ	1前	2								1
		病態生理学	1後	2								1
		栄養と代謝	1後	2								1
		臨床心理学	1後	2								1
	疾病からの回復過程	疾病と治療Ⅰ	1後	2								1
		疾病と治療Ⅱ	1後	2								2
		疾病と治療Ⅲ	2前	1								1
		薬理学	2前	2								1
	健康と生活	生活健康論	1前	1			1					
		精神保健	2前	2			1					
		疫学	2後	2		2						1
		保健行動論	1後	2								
	社会保障と健康政策	社会保障制度	1後	2								1
		国際保健学	2前	2								1
保健統計学		2後	2		2						1	
医療と経済		3前	2		2						1	
	保健行政論	1後	2		2						1	
専門教育科目	看護の基盤	看護概論	1前	2								1
		看護の歴史	2後	2								1
		生活支援論	1前	2				1				
		ライフサイクルにおける発達課題と健康	1前	1				1				
		看護と倫理	2前	2			1					
		コミュニケーション論	1後	1					1			
		初期実習Ⅰ（生活をみる）	1前	1			10	6	6	7		
		初期実習Ⅱ（コミュニケーションの実践）	1前	1			10	6	6	7		
		大学基礎演習（看護基礎ゼミ）	1前	1			9	6	6	1		
	療養生活支援看護	療養生活支援論（成人・高齢者）	2後	2			2					
		フィジカルアセスメント	2後	1			2	1				
		生活支援技術演習	2前	1			2	1				
		看護治療技術演習	2前	1			2	1	1	1		
		療養生活支援技術演習Ⅰ	3前	3			2	1	1	1		
		療養生活支援技術演習Ⅱ	3前	2			1	1		1		
療養生活支援基礎実習		2後	2				6	6	7			
療養生活支援実習Ⅰ（急性・回復期）		3後	2			2	1	1	1			
療養生活支援実習Ⅱ（慢性期）	3後	2			2	1	1	3	1			
療養生活支援実習Ⅲ（老化に伴う健康課題）	3後	2			1	1		1	1			
女性の健康と成育支援看護	女性の発達課題と健康	2後	1			1						
	母性生活支援技術演習	3前	2			1	1	1	2			
	母性生活支援実習	3後	2			1	1	1	2	1		
	成育生活支援論	2後	1			1		2				
	成育療養生活支援技術演習	3前	2			1		2				
	成育療養生活支援実習	3後	2			1		2	2	1		
コミュニティにおける継続的な看護	在宅療養生活支援論	2前	1			2						
	在宅療養生活支援技術演習	2後	2			2			1			
	ケースマネジメントと多職種連携	3前	2			1						
	精神健康と生活支援	2後	1			1						
	精神療養生活支援技術演習	3前	2			1		1	2			
	家族の健康課題と生活支援	2前	1			2						
	産業保健論	2後		2								
	学校保健論	2前		2							1	
	グローバルヘルスと国際看護	4前	2				1					
	災害看護支援論	2後	2			1	1					
	在宅療養生活支援実習	3後	2			2	6	5	6			
精神療養生活支援実習	3後	2			1		1	2	1			
災害看護支援技術演習	4通	1			1	1						
国際看護フィールドワーク	4通	1			1	1						

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	健康予防の増進と看護	地域生活支援論	2前	2			1						
		地域生活支援技術論	3前		2			1			1		1
		地域生活支援技術演習Ⅰ	3後		1			1			1		
		地域生活支援技術演習Ⅱ	4前		1			1			1		
		健康教育論	2後		2			1			1		
	看護の探求と統合	看護研究法	3前		2			1					
		課題研究	4通		2			9	6	6	6		
		キャリアマネジメント	2後		1								
		看護政策	4後		1								1
		看護システムマネジメント論	3前		2								1
		看護管理実習	3後		2				6	6	7		
		統合実習	4通		3			9	6	6	7		
	助産師コース	地域生活支援実習	4前		5			1			1		
		助産概論	3前		2			1	1				
		周産期医学	3前		2								1
		助産診断・技術Ⅰ	3後		2			1		1			
		助産診断・技術Ⅱ	4前		2			1		1			
		助産診断・技術Ⅲ	4前		2			1		1			
		助産技術演習Ⅰ	3後		1			1	1	1	2		
		助産技術演習Ⅱ	4前		1			1	1	1	2		
		助産管理論	4後		1			1	1				
		助産実習	4前		11			1	1	1	2		
	養護教諭コース	養護概説	2後		2								1
		健康相談	3前		2								1
		養護実習	4前		5								1
	小計(82科目)				95	62	0	10	6	6	7	2	16
	合計(134科目)			-	109	136	0	10	6	6	7	2	65

卒業要件及び履修方法

基礎教育科目6単位、教養教育科目8単位以上、語学・情報科学科目10単位以上、健康科学科目28単位以上、看護科学科目74単位以上(「災害看護支援技術演習」「国際看護フィールドワーク」のどちらかを修得)の条件を全て満たして、合計126単位以上取得することが卒業要件となる。学年ごとの履修単位数上限は48単位とする。(教職に関する科目は履修単位数上限を超えて履修することができる)

なお、保健師コースを選択する場合は、「疫学」「保健統計学」「保健行政論」「産業保健論」「学校保健論」「地域生活支援技術論」「地域生活支援技術演習Ⅰ」「地域生活支援技術演習Ⅱ」「健康教育論」「地域生活支援実習」を修得すること。(合計141単位以上)

助産師コースを選択する場合は、「助産概論」「周産期医学」「助産診断・技術Ⅰ」「助産診断・技術Ⅱ」「助産診断・技術Ⅲ」「助産技術演習Ⅰ」「助産技術演習Ⅱ」「助産管理論」「助産実習」を修得すること。(合計150単位以上)

養護教諭コースを選択する場合は、「日本国憲法」「スポーツⅠ」「スポーツⅡ」「情報処理演習ⅠまたはⅡ」「疫学」「学校保健論」「養護概説」「健康相談」「養護実習」と学則に定める教職に関する科目を修得すること。(合計161単位以上)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・建学の精神に基づく教育をより推進するために「仏教Ⅰ(瞑想)」を「和の精神Ⅰ」、「仏教Ⅱ(写経)」を「和の精神Ⅱ」に改称
- ・教育効果の向上を図るため、「生命の科学」の配当年度を「1前」から「1後」に変更
- ・教育効果の向上を図るため、「現代思想入門」の配当年度を「1後」から「1前」に変更
- ・教育効果の向上を図るため、「法学入門」の配当年度を「1後」から「1前」に変更
また、教育内容の充実のため、兼任・兼任の教員数を「1」から「2」に変更
- ・教育効果の向上を図るため、「ジェンダーの社会学」の配当年度を「1後」から「1前」に変更
- ・教育効果の向上を図るため、「現代日本の文化と社会」の配当年度を「1前」から「1後」に変更
- ・教育内容の充実のため、「スポーツⅠ」「スポーツⅡ」の兼任・兼任の教員数を「2」から「3」に変更
- ・教育内容の充実のため、「情報処理演習Ⅰ」の兼任・兼任の教員数を「1」から「2」に変更
- ・履修の機会を拡げるため、「情報処理演習Ⅱ」の配当年度を「1後」から「1前後」に変更
また、教育内容の充実のため、兼任・兼任の教員数を「1」から「3」に変更
- ・教育効果の向上を図るため、「先端技術」の配当年度を「1後」から「1前」に変更
- ・教育内容の充実のため、「上級英語Ⅰ」「上級英語Ⅱ」の兼任・兼任の教員数を「1」から「3」に変更
- ・教育内容の充実のため、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」の兼任・兼任の教員数を「1」から「2」に変更
- ・教育内容の充実のため、「疾病と治療Ⅱ」の兼任・兼任の教員数を「1」から「2」に変更
- ・教育効果の向上を図るため、「フィジカルアセスメント」の配当年度を「1後」から「2後」に変更

【令和2年度】

- ・コロナ禍対応のため、「和の精神Ⅰ」の配当年度を「1前」から「1後」に変更
- ・コロナ禍対応のため、「和の精神Ⅱ」の配当年度を「1後」から「2後」に変更
- ・教育効果の向上を図るため、「仏教概説」の配当年度を「1前」から「1後」に変更
- ・教育効果の向上を図るため、「現代社会と人権」の配当年度を「1後」から「1前」に変更
- ・教育効果の向上を図るため、「仏教実践演習」の配当年度を「2後」から「2前」に変更し、教員数を「兼任教授1」から「兼任教授1、兼任准教授1、兼任講師1」に変更
- ・教育効果の向上を図るため、「聖徳太子概説」の配当年度を「2前」から「2後」に変更
- ・教育効果の向上を図るため、「構造主義入門」の配当年度を「2前」から「2後」に変更
- ・教育内容の充実のため、「地域活性化概論」の教員数を「兼任教授1」から「兼任教授2、兼任准教授3、兼任講師1」に変更
- ・教育効果の向上を図るため、「情報システム」の配当年度を「2前」から「2後」に変更
- ・教育効果の向上を図るため、「情報社会の法と倫理(リテラシー含む)」の配当年度を「2前」から「2後」に変更
- ・教育内容の充実のため、「上級英語Ⅲ」の教員数を「兼任教授1」から「兼任講師3」に変更
- ・教育内容の充実のため、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」の教員数を「兼任講師2」から「兼任講師1」に変更
- ・教育内容の充実のため、「生活健康論」の専任教員数を「教授1」から「教授2」に変更
- ・教育内容の充実のため、「看護概論」の専任教員数を「教授1」から「教授2」に変更
- ・教育効果の向上を図るため、「看護の歴史」の配当年度を「2前」から「2後」に変更
- ・教育内容の充実のため、「生活支援論」の専任教員数を「教授1」から「教授1、准教授1」に変更
- ・教育内容の充実のため、「初期実習Ⅰ(生活をみる)」の専任教員数を「教授9」から「教授11」に変更
- ・教育内容の充実のため、「初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践)」の専任教員数を「教授9」から「教授11」に変更
- ・担当者の負担軽減のため、「大学基礎演習(看護基礎ゼミ)」の専任教員数を「教授9」から「教授10」に変更
- ・教育内容の充実のため、「在宅療養生活支援論」の専任教員数を「教授1」から「教授2」に変更
- ・教育内容の充実のため、「在宅療養生活支援演習」の専任教員数を「教授1」から「教授2」に変更
- ・教育内容の充実のため、「家族の健康課題と生活支援」の専任教員数を「教授1」から「教授2」に変更
- ・教育内容の充実のため、「在宅療養生活支援実習」の専任教員数を「教授1」から「教授2」に変更
- ・教育内容の充実のため、「課題研究」の専任教員数を「教授9」から「教授10」に変更
- ・教育内容の充実のため、「統合実習」の専任教員数を「教授9」から「教授10」に変更

【令和3年度】

- ・コロナ禍対応のため、「和の精神Ⅰ」の配当年度を「1後」から「1前」に変更
- ・コロナ禍対応のため、「和の精神Ⅱ」の配当年度を「2前」から「1前・1後」に変更
- ・教育効果の向上を図るため、「法学入門」の配当年度を「1前」から「1後」に変更
- ・教育内容の充実のため、「スポーツⅠ」の教員数を「兼任講師3」から「兼任講師4」に変更
- ・担当者の負担軽減のため、「情報処理演習Ⅰ」の教員数を「兼任講師2」から「兼任教授1」に変更
- ・担当者の負担軽減のため、「情報処理演習Ⅱ」の教員数を「兼任講師3」から「兼任教授1、兼任助教1」に変更
- ・担当者の負担軽減のため、「上級英語Ⅰ」「上級英語Ⅱ」の教員数を「兼任講師3」から「兼任助教1、兼任講師1」に変更
- ・担当者の負担軽減のため、「上級英語Ⅲ(医療英語)」「上級英語Ⅳ(英語論文読解)」の教員数を「兼任講師3」から「兼任教授1、兼任講師1」に変更
- ・教育内容の充実のため、「精神保健」の教員数を「教授1」から「教授1、兼任講師1」に変更
- ・担当者退職のため、「生活健康論」の専任教員数を「教授2」から「教授1」に変更
- ・担当者退職のため、「看護概論」の専任教員数を「教授1」から「兼任教授1」に変更
- ・担当者退職のため、「生活支援論」の専任教員数を「教授1」から「准教授1」に変更
- ・担当者退職のため、「初期実習Ⅰ(生活をみる)」の専任教員数を「教授11、准教授7」から「教授10、准教授6」に変更
- ・担当者退職のため、「初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践)」の専任教員数を「教授11、准教授7」から「教授10、准教授6」に変更
- ・担当者退職のため、「大学基礎演習(看護基礎ゼミ)」の専任教員数を「教授10、准教授7」から「教授9、准教授6」に変更
- ・担当者退職のため、「フィジカルアセスメント」の専任教員数を「教授1」から「教授0」に変更
- ・担当者退職のため、「生活支援技術演習」の専任教員数を「教授1」から「教授0」に変更
- ・担当者退職のため、「療養生活支援基礎実習」の専任教員数を「教授1、准教授7」から「教授0、准教授6」に変更
- ・教育内容の充実のため、「成育生活支援論」の専任教員数を「講師0」から「講師2」に変更
- ・担当者退職のため、「精神療養生活支援技術演習」の専任教員数を「助教3」から「助教2」に変更
- ・担当者退職のため、「在宅療養生活支援実習」の専任教員数を「准教授7、助教7」から「准教授6、助教6」に変更
- ・担当者退職のため、「精神療養生活支援実習」の専任教員数を「助教3」から「助教2」に変更
- ・担当者退職のため、「地域生活支援技術論」の専任教員数を「准教授1」から「准教授0」に変更し、当該教員が兼任講師として担当するため、「兼任講師0」から「兼任講師1」に変更
- ・担当者退職のため、「地域生活支援技術演習Ⅰ」の専任教員数を「准教授1」から「准教授0」に変更
- ・担当者退職のため、「地域生活支援技術演習Ⅱ」の専任教員数を「准教授1」から「准教授0」に変更
- ・担当者退職のため、「健康教育論」の専任教員数を「准教授1」から「准教授0」に変更
- ・担当者退職のため、「課題研究」の専任教員数を「教授10、准教授7、助教7」から「教授9、准教授6、助教6」に変更
- ・担当者退職のため、「看護管理実習」の専任教員数を「教授1、准教授7」から「教授0、准教授6」に変更
- ・担当者退職のため、「統合実習」の専任教員数を「教授10、准教授7」から「教授9、准教授6」に変更
- ・担当者退職のため、「地域生活支援実習」の専任教員数を「准教授1」から「准教授0」に変更

【令和4年度】

<旧カリキュラム>

- ・教育効果の向上を図るため、「和の精神Ⅱ」の配当年次を「1前・1後」から「1後」に変更
- ・教育効果の向上を図るため、「環境の科学」の配当年次を「1前」から「1後」に変更
- ・担当者退職に伴い、「仏教芸術入門」の教員数を「兼任講師1」から「兼任講師0」に変更
- ・教育内容の充実のため、「データ収集分析」の教員数を「兼任准教授1」から「兼任教授1、兼任助教1」に変更
- ・教育内容の充実のため、「上級英語Ⅰ」の教員数を「兼任助教1、兼任講師1」から「兼任講師3」に変更
- ・教育内容の充実のため、「上級英語Ⅱ」の教員数を「兼任助教1、兼任講師1」から「兼任講師3」に変更
- ・教育内容の充実のため、「上級英語Ⅲ（医療英語）」の教員数を「兼任准教授1、兼任講師1」から「兼任講師2、兼任助教1」に変更
- ・教育内容の充実のため、「上級英語Ⅳ（英語論文読解）」の教員数を「兼任准教授1、兼任講師1」から「兼任講師3」に変更
- ・教育内容の充実のため、「保健行動論」の教員数を「兼任講師1」に変更
- ・教育内容の充実のため、「看護概論」の教員数を「兼任教授1」から「専任教授1、兼任教授1」に変更
- ・教育内容の充実のため、「看護の歴史」の教員数を「兼任教授1」から「専任教授1」に変更し、教育効果の向上を図るため、配当年次を「2後」から「2前」に変更
- ・担当者退職及び専任教員就任に伴い、「初期実習Ⅰ（生活をみる）」の専任教員数を「教授10、准教授6、講師6、助教7」から「教授10、准教授5、講師5、助教8」に変更
- ・担当者退職及び専任教員就任に伴い、「初期実習Ⅱ（コミュニケーションの実践）」の専任教員数を「教授10、准教授6、講師6、助教7」から「教授10、准教授5、講師5、助教8」に変更
- ・担当者退職及び専任教員就任に伴い、「大学基礎演習（看護基礎ゼミ）」の専任教員数を「教授9、准教授6、講師6、助教1」から「教授10、准教授5、講師5、助教2」に変更
- ・担当者退職及び専任教員就任に伴い、「フィジカルアセスメント」の専任教員数を「准教授2、講師1」から「教授1、准教授1、講師1、助教1」に変更
- ・担当者退職及び専任教員就任に伴い、「生活支援技術演習」の専任教員数を「准教授2、講師1」から「教授1、准教授1、講師1、助教1」に変更
- ・担当者退職のため、「看護治療技術演習」の専任教員数を「教授2、准教授1、講師1、助教1」から「教授2、准教授1、助教1」に変更
- ・担当者退職のため、「療養生活支援技術演習Ⅰ」の専任教員数を「教授2、准教授1、講師1、助教1」から「教授2、准教授1、助教1」に変更
- ・担当者退職及び専任教員就任に伴い、「療養生活支援基礎実習」の専任教員数を「准教授6、講師6、助教7」から「教授1、准教授5、講師5、助教8」に変更
- ・担当者退職のため、「療養生活支援実習Ⅰ（急性・回復期）」の専任教員数を「教授2、准教授1、講師1、助教1」から「教授2、准教授1、助教1」に変更
- ・担当者退職のため、「療養生活支援実習Ⅱ（慢性期）」の専任教員数等を「教授2、准教授1、講師1、助教3、助手1」から「教授2、准教授1、助教3、助手1」に変更
- ・教育内容の充実のため、「成育療養生活支援技術演習」の教員数を「専任教授1、専任講師2」から「専任教授1、専任講師2、兼任講師2」に変更
- ・教育内容の充実のため、「産業保健論」の教員数を「兼任講師1」に変更
- ・担当者退職のため、「災害看護支援論」の専任教員数を「教授1、准教授1」から「准教授1」に変更
- ・担当者退職及び専任教員就任に伴い、「在宅療養生活支援実習」の専任教員数を「教授2、准教授6、講師5、助教6」から「教授2、准教授5、講師5、助教7」に変更
- ・担当者退職のため、「災害看護支援技術演習」の専任教員数を「教授1、准教授1」から「准教授1」に変更
- ・担当者退職のため、「国際看護フィールドワーク」の専任教員数を「教授1、准教授1」から「准教授1」に変更
- ・担当者退職のため、「地域生活支援技術論」の教員数を「専任教授1、専任助教1、兼任講師1」から「専任教授1、専任助教1」に変更
- ・担当者退職及び専任教員就任に伴い、「課題研究」の専任教員数を「教授9、准教授6、講師6、助教6」から「教授10、准教授5、講師5、助教7」に変更
- ・教育内容の充実のため、「キャリアマネジメント」の教員数を「兼任講師1」に変更
- ・教育内容の充実のため、「看護政策」の教員数を「兼任教授1」から「専任教授1」に変更
- ・担当者退職及び専任教員就任に伴い、「看護管理実習」の専任教員数を「准教授6、講師6、助教7」から「教授1、准教授5、講師5、助教8」に変更
- ・担当者退職及び専任教員就任に伴い、「統合実習」の専任教員数を「教授9、准教授6、講師6、助教7」から「教授10、准教授5、講師5、助教8」に変更
- ・教育内容の充実のため、「地域生活支援実習」の専任教員数等を「教授1、助教1」から「教授1、助教1、助手1」に変更

<新カリキュラム>

- ・教育効果の向上を図るため、「和の精神Ⅱ」の配当年次を「1前・1後」から「1後」に変更
- ・教育効果の向上を図るため、「環境の科学」の配当年次を「1前」から「1後」に変更
- ・担当者退職に伴い、「仏教芸術入門」の教員数を「兼任講師1」から「兼任講師0」に変更
- ・教育内容の充実のため、「データ収集分析」の教員数を「兼任准教授1」から「兼任教授1、兼任助教1」に変更
- ・教育内容の充実のため、「上級英語Ⅰ」の教員数を「兼任助教1、兼任講師1」から「兼任講師3」に変更
- ・教育内容の充実のため、「上級英語Ⅱ」の教員数を「兼任助教1、兼任講師1」から「兼任講師3」に変更
- ・教育内容の充実のため、「上級英語Ⅲ（医療英語）」の教員数を「兼任准教授1、兼任講師1」から「兼任講師2」に変更
- ・教育的効果を考慮し、「上級英語Ⅳ（英語論文読解）」の教員数を「兼任准教授1、兼任講師1」から「兼任准教授0、兼任講師0」に変更
- ・担当者退職に伴い、「疾病と治療Ⅲ」の教員数を「兼任教授1」から「兼任教授0」に変更
- ・教育内容の充実のため、「保健行動論」の教員数を「兼任講師1」に変更
- ・担当者退職に伴い、「保健統計学」の教員数を「兼任講師1」から「兼任講師0」に変更
- ・教育内容の充実のため、「看護概論」の教員数を「兼任教授1」から「専任教授1、兼任教授1」に変更
- ・担当者退職に伴い、「看護の歴史」の「兼任教授1」から「兼任教授0」に変更し、配当年次を「2後」から「2前」に変更
- ・担当者退職に伴い、「看護と倫理」の専任教員数を「教授1」から「教授0」に変更
- ・担当者退職及び専任教員就任に伴い、「初期実習Ⅰ（生活をみる）」「初期実習Ⅱ（コミュニケーションの実践）」の専任教員数を「教授10、准教授6、講師6、助教7」から「教授10、准教授5、講師5、助教8」に変更
- ・担当者退職及び専任教員就任に伴い、「大学基礎演習（看護基礎ゼミ）」の専任教員数を「教授9、准教授6、講師6、助教1」から「教授10、准教授5、講師5、助教2」に変更
- ・担当者退職に伴い、「療養生活支援論（成人・高齢者）」の専任教員数を「教授2」から「教授1」に変更
- ・担当者退職及び専任教員就任に伴い、「フィジカルアセスメント」の専任教員数を「准教授2、講師1」から「講師1、助教1」に変更
- ・保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正に伴い、「フィジカルアセスメント」の単位数を「1単位」から「2単位」に変更
- ・担当者退職及び専任教員就任に伴い、「生活支援技術演習」の専任教員数を「准教授2、講師1」から「講師1、助教1」に変更
- ・担当者退職に伴い、「看護治療技術演習」の専任教員数を「教授2、准教授1、講師1、助教1」から「教授2、准教授1、助教1」に変更
- ・担当者退職に伴い、「療養生活支援技術演習Ⅰ」の専任教員数を「教授2、准教授1、講師1、助教1」から「教授2、准教授1」に変更
- ・担当者退職に伴い、「療養生活支援技術演習Ⅱ」の専任教員数を「教授1、准教授1、助教1」から「准教授1」に変更
- ・担当者退職及び専任教員就任に伴い、「療養生活支援基礎実習」の専任教員数を「准教授6、講師6、助教7」から「准教授4、講師5、助教8」に変更
- ・担当者退職に伴い、「療養生活支援実習Ⅰ（急性・回復期）」の専任教員数を「教授2、准教授1、講師1、助教1」から「教授2、准教授1」に変更
- ・担当者退職に伴い、「療養生活支援実習Ⅱ（慢性期）」の専任教員数等を「教授2、准教授1、講師1、助教3、助手1」から「教授2、准教授1、助教1、助手1」に変更
- ・担当者退職に伴い、「療養生活支援実習Ⅲ（老化に伴う健康課題）」の専任教員数等を「教授1、准教授1、助教1、助手1」から「准教授1、助手1」に変更
- ・担当者退職に伴い、「成育生活支援論」の専任教員数を「教授1、講師2」から「講師2」に変更
- ・担当者退職及び教育内容の充実のため、「成育療養生活支援技術演習」の教員数を「専任教授1、専任講師2」から「専任講師2、兼任講師2」に変更
- ・担当者退職に伴い、「成育療養生活支援実習」の専任教員数等を「教授1、講師2、助教2、助手1」から「講師2、助教2、助手1」に変更
- ・担当者退職に伴い、「精神療養生活支援技術演習」の専任教員数を「教授1、講師1、助教2」から「教授1、講師1、助教1」に変更
- ・担当者退職に伴い、「災害看護支援論」の専任教員数を「教授1、准教授1」から「准教授1」に変更
- ・担当者退職及び専任教員就任に伴い、「在宅療養生活支援実習」の専任教員数を「教授2、准教授6、講師5、助教6」から「教授2、准教授4、講師5、助教3」に変更
- ・担当者退職に伴い、「精神療養生活支援実習」の専任教員数等を「教授1、講師1、助教2、助手1」から「教授1、講師1、助教1、助手1」に変更
- ・担当者退職に伴い、「災害看護支援技術演習」の専任教員数を「教授1、准教授1」から「准教授1」に変更

- ・担当者退職に伴い、「国際看護フィールドワーク」の専任教員数を「教授1、准教授1」から「准教授1」に変更
- ・保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正に伴い、授業科目名称を「地域生活支援論」から「地域生活支援論Ⅰ」に変更
- ・担当者退職に伴い、「地域生活支援論Ⅰ」の専任教員数を「教授1」から「教授0」に変更
- ・保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正に伴い、新設科目として「3前」に「地域生活支援論Ⅱ」「2単位」を追加
- ・担当者退職に伴い、「地域生活支援技術論」の教員数を「専任助教1、兼任講師1」から「専任教授0、専任助教0、兼任講師0」に変更
- ・担当者退職に伴い、「地域生活支援技術演習Ⅰ」「地域生活支援技術演習Ⅱ」の専任教員数「教授1、助教1」から「教授0、助教0」に変更し、後任検討中
- ・保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正に伴い、「地域生活支援技術演習Ⅱ」の単位数を「1単位」から「2単位」に変更
- ・担当者退職に伴い、「健康教育論」の専任教員数を「教授1、助教1」から「助教1」に変更
- ・担当者退職に伴い、「看護研究法」の専任教員数を「教授1」から「教授0」に変更
- ・担当者退職及び専任教員就任に伴い、「課題研究」の専任教員数を「教授9、准教授6、講師6、助教6」から「教授5、准教授4、講師5、助教2」に変更
- ・保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正に伴い、「看護政策」を「必修科目」から「選択科目」に変更
- ・担当者退職に伴い、「看護政策」の教員数を「兼任教授1」から「兼任教授0」に変更
- ・担当者退職及び専任教員就任に伴い、「看護管理実習」の専任教員数を「准教授6、講師6、助教7」から「准教授4、講師5、助教4」に変更
- ・担当者退職及び専任教員就任に伴い、「統合実習」の専任教員数を「教授9、准教授6、講師6、助教7」から「教授5、准教授4、講師5、助教3」に変更
- ・担当者退職に伴い、「地域生活支援実習」の専任教員数を「教授1、助教1」から「教授0、助教0」に変更
- ・保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正に伴い、授業科目名称を「助産概論」から「助産学概論」に変更
- ・担当者退職に伴い、「助産学概論」の専任教員数を「教授1、准教授1」から「准教授1」に変更
- ・保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正に伴い、「周産期医学」の配当年次を「3前」から「3後」に変更
- ・保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正に伴い、授業科目名称を「助産診断・技術Ⅰ」から「助産診断・技術学Ⅰ」に変更し、単位数を「2単位」から「3単位」に変更
- ・担当者退職に伴い、「助産診断・技術学Ⅰ」の専任教員数を「教授1、講師1」から「講師1」に変更
- ・保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正に伴い、授業科目名称を「助産診断・技術Ⅱ」から「助産診断・技術学Ⅱ」に変更
- ・担当者退職に伴い、「助産診断・技術学Ⅱ」の専任教員数を「教授1、講師1」から「講師1」に変更
- ・保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正に伴い、授業科目名称を「助産診断・技術Ⅲ」から「助産診断・技術学Ⅲ」に変更し、単位数を「2単位」から「3単位」に変更
- ・担当者退職に伴い、「助産診断・技術学Ⅲ」の専任教員数を「教授1、講師1」から「講師1」に変更
- ・保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正に伴い、授業科目名称を「助産技術演習Ⅰ」から「助産技術学演習Ⅰ」に変更
- ・担当者退職に伴い、「助産技術学演習Ⅰ」の専任教員数を「教授1、准教授1、講師1、助教2」から「准教授1、講師1、助教2」に変更
- ・保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正に伴い、授業科目名称を「助産技術演習Ⅱ」から「助産技術学演習Ⅱ」に変更
- ・担当者退職に伴い、「助産技術学演習Ⅱ」の専任教員数を「教授1、准教授1、講師1、助教2」から「准教授1、講師1、助教1」に変更
- ・保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正に伴い、新設科目として「地域母子保健」「1単位」を追加
- ・担当者退職に伴い、「助産管理論」の専任教員数を「教授1、准教授1」から「准教授1」に変更
- ・担当者退職に伴い、「助産実習」の専任教員数を「教授1、准教授1、講師1、助教2」から「准教授1、講師1、助教1」に変更

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
65 科目	69 科目	0 科目	134 科目	65 科目 []	69 科目 []	0 科目 []	134 科目 []	<令和4年度新カリキュラム> 必修：64科目 [△1] 選択：72科目 [+3] 自由：0科目 計136科目

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	仏教芸術入門	2	2	一般	選択	担当者都合のため 代替措置 無
2	体育講義	2	1	一般	選択	担当者都合のため 代替措置 無
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

未開講とした2科目は共通教育科目の選択科目として設置しているため、学生の履修、卒業への影響はないと考える。学生への周知は履修要覧で周知している。
今後については、担当教員のコマ数を配慮の上、検討する。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{2}{134} = \boxed{1.49}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校舎敷地	0 m ²	105,874.22 m ² 100,141.08 m ²	0 m ²	105,874.22 m ² 100,141.08 m ²	四天王寺大学短期大学部（必要面積4,800m ² ）と共用		
	運動場用地	0 m ²	67,012.64 m ² 30,611.60 m ²	0 m ²	67,012.64 m ² 30,611.60 m ²	学園内の高等学校廃止による 土地移管（元）		
	小 計	0 m ²	172,886.86 m ² 130,752.68 m ²	0 m ²	172,886.86 m ² 130,752.68 m ²			
	そ の 他	0 m ²	59,355.14 m ² 101,489.32 m ² 67,824.32 m ²	0 m ²	59,355.14 m ² 101,489.32 m ² 67,824.32 m ²	元年度、移管された校地の改 修工事が2年7月に完成。こ れに伴い、土地の用途を変更 （3）		
	合 計	0 m ²	232,242.00 m ² 188,577.00 m ²	0 m ²	232,242.00 m ² 188,577.00 m ²			
(2) 校 舎	専 用	4,058.10 m ² 4,100.96 m ²	59,309.72 m ² 59,298.75 m ² 59,211.32 m ² 59,252.75 m ² 59,203.82 m ²	938.44 m ² 949.41 m ² 1,036.84 m ² 995.41 m ² 1,044.34 m ²	64,306.26 m ² 64,349.12 m ²	四天王寺大学短期大学部（必要 面積5,200m ² ）と共用 【専用】 建設中であった校舎の完成に伴う 変更（元） 【共用】および【共用する他の学 校等の専用】 併設短期大学部専用研究室の減に よる変更（元） 【共用】および【共用する他の学 校等の専用】 併設短期大学部専用研究室の増に よる変更（2） 【共用】および【共用する他の学 校等の専用】 併設短期大学部専用研究室の減に よる変更（3） 【共用】および【共用する他の学 校等の専用】 併設短期大学部専用研究室の減に よる変更（4）		
	(4,058.10 m ²) (4,100.96 m ²)	(59,309.72 m ²) (59,298.75 m ²) (59,211.32 m ²) (59,252.75 m ²) (59,203.82 m ²)	(938.44 m ²) (949.41 m ²) (1,036.84 m ²) (995.41 m ²) (1,044.34 m ²)	(64,306.26 m ²) (64,349.12 m ²)				
(3) 教 室 等	講 義 室	68 室	演 習 室 69 室 64 室	実 験 実 習 室 31 室	情 報 処 理 学 習 施 設 1 室	語 学 学 習 施 設 0 室	大学全体 教室使用の用途変更のため （3）	
	(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称 看護学部		室 数 31 室		申請学部全体 (共同研究費3部屋含む)		
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体の共有分 図書 342,870冊 335,063冊 325,341冊 299,801冊 [40,537冊] [41,341冊] [41,243冊] [39,556冊] 学術雑誌 4,707種 4,647種 4,616種 4,324種 [430種] [434種] [427種] [384種]
	看護学部	4,987 [140] 4,572 [128] 4,215 [128] (4,095 [125]) (3,854 [125]) (3,813 [100])	462 [414] 639 [591] (645 [597]) (461 [414]) (462 [414])	426 [409] 605 [586] (611 [592]) (426 [409])	233 (200) (192) (181) (178) (158)	3,873 (3,840)	33 (33)	購入による変更（2） 購入による変更（3） 購入、休刊等による変更 （4）
	計	4,987 [140] 4,572 [128] 4,215 [128] (4,095 [125]) (3,854 [125]) (3,813 [100])	462 [414] 639 [591] (645 [597]) (461 [414]) (462 [414])	426 [409] 605 [586] (611 [592]) (426 [409])	233 (200) (192) (181) (178) (158)	3,873 (3,840)	33 (33)	
	面 積	開 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体 371,699 310,000 294,000 閲覧スペースのレイアウト 変更の為（3）		
(6) 図 書 館	面 積		開 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体 371,699 310,000 294,000	
	11,008.20 m ² 7,530.06 m ²		テニスコート 4,837.57 m ² 2,953.60 m ² 武 道 場 1,447.43 m ²		1,447.43 m ²		学園内の高等学校廃止により、 既存施設の移管による 変更（2）	
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開 設 年 度	完 成 年 度	区 分	開 設 前 年 度	開 設 年 度	完 成 年 度	図書購入費には電子ジャー ナル、データベース購入費 を含む
	教員1人当り研究費等	370千円	370千円	図書購入費	21,600千円	10,800千円	2,450千円	
	共 同 研 究 費 等	2000千円	3,000千円 2,000千円	設備購入費	187,191千円 191,483千円 215,000千円	44,598千円 43,508千円 66,600千円	— 千円	再精査の結果、修正（元） 【設備購入費】 当初計画に加え、A・V関係 等の教育環境の見直しを 実施（2） 【共同研究費】 研究支援のために増額 （4）
	学生1人当り 納付金	第1年次 1,860千円	第2年次 1,660千円	第3年次 1,660千円	第4年次 1,660千円	第5年次 — 千円	第6年次 — 千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要	手数料収入、雑収入等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目は△C対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	四天王寺大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人 3年次	人		倍	倍	年度	年度		
人文社会学部											
日本学科	4	100	3	406	学士(人文社会学)	1.04	0.99		平成24	大阪府羽曳野市 学園前三丁目2-1	
国際キャリア学科	4	90	5	370	学士(人文社会学)	0.97	0.61		平成24		
社会学科	4	160	5	650	学士(人文社会学)	1.12	1.13		昭和61		
人間福祉学科	4	70	15	310	学士(人文社会学)	1.06	0.98		平成18		
教育学部			3年次								
教育学科	4	240	17	994	学士(教育学)	1.10	1.14		平成20		
経営学部			3年次								
経営学科									平成20		
公共経営専攻	4	40	2	164	学士(経営学)	0.97	1.02		平成28		
企業経営専攻	4	120	3	486	学士(経営学)	1.13	1.05		平成28		
看護学部											
看護学科	4	80	—	320	学士(看護学)	1.07	1.13		平成31		
大学全体	—	900	50	3700	—	—	—	—	—		

大学の名称	四天王寺大学大学院						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
人文社会学研究科 人間福祉学専攻										大阪府羽曳野市 学園前三丁目2-1	
博士前期課程	2	10	—	20	修士(人間福祉学)	0.00	0.00		平成15		
博士後期課程	3	3	—	9	博士(人間福祉学)	0.66	0.00		平成15		
看護学研究科 看護学専攻											
博士前期課程	2	6	—	12	修士(看護学)	1.08	0.83		令和2		
博士後期課程	3	3	—	9	博士(看護学)	0.88	0.66		令和2		
大学院全体	—	22	—	50	—	—	—	—	—		

大学の名称	四天王寺大学短期大学部						学生募集停止学科数	1	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
保育科	2	120	—	240	短期大学士(保育)	0.66	0.65		昭和42	大阪府羽曳野市 学園前三丁目2-1	
ライフデザイン学科	2	100	—	200	短期大学士(ライフデザイン)	0.88	0.82				
ライフケア専攻	2	0	—	20	短期大学士(ライフケア)	0.80	—		平成13		
短期大学部全体	—	220	—	460	—	—	—	—	—		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
 ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<看護学部 看護学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授(学部長)(学部長)	山本 あい子 <平成31年4月> 博士(看護学)	看護と倫理 災害看護支援論 災害看護支援技術演習 国際看護フィールドワーク
専	教授	赤井 由紀子 <平成31年4月> 博士(保健看護学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 母性生活支援技術演習 母性生活支援実習 課題研究 統合実習 助産概論 助産診断・技術Ⅰ 助産診断・技術Ⅱ 助産診断・技術Ⅲ 助産技術演習Ⅰ 助産技術演習Ⅱ 助産管理論 助産実習
専	教授	宇佐美 しおり <平成31年4月> 博士(看護学)	精神保健 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) ケースマネジメントと多職種連携 精神健康と生活支援 精神療養生活支援技術演習 精神療養生活支援実習 課題研究 統合実習
専	教授	大橋 純子 <平成31年4月> 博士(人間健康科学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 在宅療養生活支援論 在宅療養生活支援技術演習 家族の健康課題と生活支援 在宅療養生活支援実習 課題研究 統合実習
専	教授	鈴木 真知子 <平成31年4月> 博士(看護学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 成育生活支援論 成育療養生活支援技術演習 成育療養生活支援実習 課題研究 統合実習

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授(学部長)(学部長)	山本 あい子 <平成31年4月> 博士(看護学)	看護と倫理 災害看護支援論 災害看護支援技術演習 国際看護フィールドワーク
専	教授	赤井 由紀子 <平成31年4月> 博士(保健看護学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 母性生活支援技術演習 母性生活支援実習 課題研究 統合実習 助産概論 助産診断・技術Ⅰ 助産診断・技術Ⅱ 助産診断・技術Ⅲ 助産技術演習Ⅰ 助産技術演習Ⅱ 助産管理論 助産実習
専	教授	宇佐美 しおり <平成31年4月> 博士(看護学)	精神保健 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) ケースマネジメントと多職種連携 精神健康と生活支援 精神療養生活支援技術演習 精神療養生活支援実習 課題研究 統合実習
専	教授	大橋 純子 <平成31年4月> 博士(人間健康科学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 在宅療養生活支援論 在宅療養生活支援技術演習 家族の健康課題と生活支援 在宅療養生活支援実習 課題研究 統合実習
専	教授	鈴木 真知子 <平成31年4月> 博士(看護学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 成育生活支援論 成育療養生活支援技術演習 成育療養生活支援実習 課題研究 統合実習

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授(学部長)(学部長)	山本 あい子 <平成31年4月> 博士(看護学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 看護と倫理 災害看護支援論 災害看護支援技術演習 国際看護フィールドワーク
専	教授(学部長)	赤井 由紀子 <平成31年4月> 博士(保健看護学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 母性生活支援技術演習 母性生活支援実習 課題研究 統合実習 助産概論 助産診断・技術Ⅰ 助産診断・技術Ⅱ 助産診断・技術Ⅲ 助産技術演習Ⅰ 助産技術演習Ⅱ 助産管理論 助産実習
専	教授	宇佐美 しおり <平成31年4月> 博士(看護学)	精神保健 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) ケースマネジメントと多職種連携 精神健康と生活支援 精神療養生活支援技術演習 精神療養生活支援実習 課題研究 統合実習
専	教授	大橋 純子 <平成31年4月> 博士(人間健康科学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 在宅療養生活支援論 在宅療養生活支援技術演習 家族の健康課題と生活支援 在宅療養生活支援実習 課題研究 統合実習
専	教授	鈴木 真知子 <平成31年4月> 博士(看護学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 成育生活支援論 成育療養生活支援技術演習 成育療養生活支援実習 課題研究 統合実習

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	山本 あい子 <平成31年4月> 博士(看護学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 看護と倫理 災害看護支援論 災害看護支援技術演習 国際看護フィールドワーク
専	教授	赤井 由紀子 <平成31年4月> 博士(保健看護学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 母性生活支援技術演習 母性生活支援実習 課題研究 統合実習 助産概論 助産診断・技術Ⅰ 助産診断・技術Ⅱ 助産診断・技術Ⅲ 助産技術演習Ⅰ 助産技術演習Ⅱ 助産管理論 助産実習
専	教授	宇佐美 しおり <平成31年4月> 博士(看護学)	精神保健 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) ケースマネジメントと多職種連携 精神健康と生活支援 精神療養生活支援技術演習 精神療養生活支援実習 課題研究 統合実習
兼任	講師	小島 葉子 <令和3年4月> 博士(医学)	精神保健
専	教授	大橋 純子 <平成31年4月> 博士(人間健康科学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 在宅療養生活支援論 在宅療養生活支援技術演習 家族の健康課題と生活支援 在宅療養生活支援実習 課題研究 統合実習
専	教授	鈴木 真知子 <平成31年4月> 博士(看護学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 成育生活支援論 成育療養生活支援技術演習 成育療養生活支援実習 課題研究 統合実習

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	西田 真壽美 <平成31年4月> 博士(保健学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援論(成人・高齢者) 療養生活支援技術演習Ⅱ 療養生活支援実習Ⅲ(老化に伴う健康課題) 看護研究法 課題研究 統合実習
		福田 和明 <平成31年4月> 博士(看護学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援論(成人・高齢者) 看護治療技術演習 療養生活支援技術演習Ⅰ 療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期) 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 課題研究 統合実習
専	教授	藤原 尚子 <令和2年4月> 博士(保健学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 看護治療技術演習 療養生活支援技術演習Ⅰ 療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期) 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 課題研究 統合実習
		山田 和子 <平成31年4月> 博士(保健医療学) 博士(医学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 地域生活支援論 地域生活支援技術論 地域生活支援技術演習Ⅰ 地域生活支援技術演習Ⅱ 健康教育論 課題研究 統合実習 地域生活支援実習

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	西田 真壽美 <平成31年4月> 博士(保健学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援論(成人・高齢者) 療養生活支援技術演習Ⅱ 療養生活支援実習Ⅲ(老化に伴う健康課題) 看護研究法 課題研究 統合実習
		福田 和明 <平成31年4月> 博士(看護学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援論(成人・高齢者) 看護治療技術演習 療養生活支援技術演習Ⅰ 療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期) 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 課題研究 統合実習
専	教授	藤原 尚子 <令和2年4月> 博士(保健学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 看護治療技術演習 療養生活支援技術演習Ⅰ 療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期) 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 課題研究 統合実習
		山田 和子 <平成31年4月> 博士(保健医療学) 博士(医学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 地域生活支援論 地域生活支援技術論 地域生活支援技術演習Ⅰ 地域生活支援技術演習Ⅱ 健康教育論 課題研究 統合実習 地域生活支援実習

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	西田 真壽美 <平成31年4月> 博士(保健学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援論(成人・高齢者) 療養生活支援技術演習Ⅱ 療養生活支援実習Ⅲ(老化に伴う健康課題) 看護研究法 課題研究 統合実習 看護概論
		栗越 千枝 <令和2年4月> 博士(看護学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 在宅療養生活支援論 在宅療養生活支援技術演習 在宅療養生活支援実習 家族の健康課題と生活支援 課題研究 統合実習 生活健康論
専	教授	福田 和明 <平成31年4月> 博士(看護学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援論(成人・高齢者) 看護治療技術演習 療養生活支援技術演習Ⅰ 療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期) 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 課題研究 統合実習
		藤原 尚子 <令和2年4月> 博士(保健学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 看護治療技術演習 療養生活支援技術演習Ⅰ 療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期) 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 課題研究 統合実習
専	教授	山田 和子 <平成31年4月> 博士(保健医療学) 博士(医学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 地域生活支援論 地域生活支援技術論 地域生活支援技術演習Ⅰ 地域生活支援技術演習Ⅱ 健康教育論 課題研究 統合実習 地域生活支援実習

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	西田 真壽美 <平成31年4月> 博士(保健学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援論(成人・高齢者) 療養生活支援技術演習Ⅱ 療養生活支援実習Ⅲ(老化に伴う健康課題) 看護研究法 課題研究 統合実習
		高橋(田代) 照子 <令和3年4月> Doctor of Philosophy in Nursing(米國)	看護概論
専	教授	栗越 千枝 <令和2年4月> 博士(看護学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 在宅療養生活支援論 在宅療養生活支援技術演習 在宅療養生活支援実習 家族の健康課題と生活支援 課題研究 統合実習 生活健康論
		福田 和明 <平成31年4月> 博士(看護学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援論(成人・高齢者) 看護治療技術演習 療養生活支援技術演習Ⅰ 療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期) 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 課題研究 統合実習
専	教授	藤原 尚子 <令和2年4月> 博士(保健学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 看護治療技術演習 療養生活支援技術演習Ⅰ 療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期) 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 課題研究 統合実習
		山田 和子 <平成31年4月> 博士(保健医療学) 博士(医学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 地域生活支援論 地域生活支援技術論 地域生活支援技術演習Ⅰ 地域生活支援技術演習Ⅱ 健康教育論 課題研究 統合実習 地域生活支援実習

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	和田(吉川) 恵美子 <平成31年4月> 博士(看護学)	生活健康論 看護概論 生活支援論 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) フィジカルアセスメント 生活支援技術演習 療養生活支援基礎実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	准教授	池内 香織 <平成31年4月> 修士(看護学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) フィジカルアセスメント 生活支援技術演習 療養生活支援基礎実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	准教授	亀井 緑 <平成31年4月> 博士(看護学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 グローバルヘルスと国際看護 在宅療養生活支援実習 災害看護支援技術演習 国際看護フィールドワーク 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	准教授	小出 恵子 <平成31年4月> 博士(看護学)	保健行動論 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 産業保健論 在宅療養生活支援実習 地域生活支援技術論 地域生活支援技術演習Ⅰ 地域生活支援技術演習Ⅱ 健康教育論 課題研究 看護管理実習 統合実習 地域生活支援実習

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	和田(吉川) 恵美子 <平成31年4月> 博士(看護学)	生活健康論 看護概論 生活支援論 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) フィジカルアセスメント 生活支援技術演習 療養生活支援基礎実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	准教授	池内 香織 <平成31年4月> 修士(看護学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) フィジカルアセスメント 生活支援技術演習 療養生活支援基礎実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	准教授	亀井 緑 <平成31年4月> 博士(看護学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 グローバルヘルスと国際看護 在宅療養生活支援実習 災害看護支援技術演習 国際看護フィールドワーク 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	准教授	小出 恵子 <平成31年4月> 博士(看護学)	保健行動論 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 産業保健論 在宅療養生活支援実習 地域生活支援技術論 地域生活支援技術演習Ⅰ 地域生活支援技術演習Ⅱ 健康教育論 課題研究 看護管理実習 統合実習 地域生活支援実習

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	和田(吉川) 恵美子 <平成31年4月> 博士(看護学)	生活健康論 看護概論 生活支援論 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) フィジカルアセスメント 生活支援技術演習 療養生活支援基礎実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	准教授	池内 香織 <平成31年4月> 修士(看護学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) フィジカルアセスメント 生活支援技術演習 療養生活支援基礎実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	准教授	亀井 緑 <平成31年4月> 博士(看護学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 グローバルヘルスと国際看護 在宅療養生活支援実習 災害看護支援技術演習 国際看護フィールドワーク 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	准教授	小出 恵子 <平成31年4月> 博士(看護学)	保健行動論 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 産業保健論 在宅療養生活支援実習 地域生活支援技術論 地域生活支援技術演習Ⅰ 地域生活支援技術演習Ⅱ 健康教育論 課題研究 看護管理実習 統合実習 地域生活支援実習

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	池内 香織 <平成31年4月> 修士(看護学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) フィジカルアセスメント 生活支援技術演習 療養生活支援基礎実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	准教授	亀井 緑 <平成31年4月> 博士(看護学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 グローバルヘルスと国際看護 在宅療養生活支援実習 災害看護支援技術演習 国際看護フィールドワーク 課題研究 看護管理実習 統合実習 災害看護支援論
兼任	講師	小出 恵子 <令和3年4月> 博士(看護学)	地域生活支援技術論

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専 助教		吉本 和樹 <平成31年4月> 修士(看護学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 療養生活支援技術演習Ⅱ 療養生活支援基礎実習 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 療養生活支援実習Ⅲ(老化に伴う健康課題) 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
兼任 教授		井川 好二 <令和2年4月> 博士(教育学)	上級英語Ⅲ(医療英語)
兼任 教授		岩尾 洋 <平成31年4月> 医学博士	仏教Ⅰ(瞑想) 仏教Ⅱ(写経) 薬理学
兼任 教授		奥野 孝昭 <平成31年4月> 体育学士	レクリエーション論
兼任 教授		奥野 暢通 <平成31年4月> 教育学修士	スポーツⅠ スポーツⅡ 体育講義

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専 助教		吉本 和樹 <平成31年4月> 修士(看護学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 療養生活支援技術演習Ⅱ 療養生活支援基礎実習 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 療養生活支援実習Ⅲ(老化に伴う健康課題) 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
兼任 教授		井川 好二 <令和2年4月> 博士(教育学)	上級英語Ⅲ(医療英語)
兼任 教授		岩尾 洋 <平成31年4月> 医学博士	和の精神Ⅰ 和の精神Ⅱ 薬理学
兼任 教授		奥野 孝昭 <平成31年4月> 体育学士	レクリエーション論
兼任 教授		奥野 暢通 <平成31年4月> 教育学修士	体育講義

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専 助教		吉本 和樹 <平成31年4月> 修士(看護学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 療養生活支援技術演習Ⅱ 療養生活支援基礎実習 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 療養生活支援実習Ⅲ(老化に伴う健康課題) 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
兼任 講師		戸部 史子 <令和2年4月> 修士(英文学)	上級英語Ⅲ(医療英語)
兼任 講師		若林 英男 <令和2年4月> 学士(経済学)	上級英語Ⅲ(医療英語)
兼任 教授		岩尾 洋 <平成31年4月> 医学博士	和の精神Ⅰ 和の精神Ⅱ 薬理学
兼任 教授		奥野 孝昭 <平成31年4月> 体育学士	レクリエーション論
兼任 教授		奥野 暢通 <平成31年4月> 教育学修士	体育講義

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専 助教		吉本 和樹 <平成31年4月> 修士(看護学)	初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 療養生活支援技術演習Ⅱ 療養生活支援基礎実習 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 療養生活支援実習Ⅲ(老化に伴う健康課題) 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
兼任 講師		中田 貴真 <令和3年4月> 修士(現代語現代文学)	上級英語Ⅲ(医療英語) 上級英語Ⅳ(英語論文読解)
兼任 助教		上野 舞斗 <令和3年4月> 修士(教育学)	上級英語Ⅰ 上級英語Ⅱ
兼任(学部長) 教授		岩尾 洋 <平成31年4月> 医学博士	和の精神Ⅰ 和の精神Ⅱ
兼任 講師		松村 靖夫 <令和3年4月> 医学博士	薬理学
兼任 教授		奥野 孝昭 <平成31年4月> 体育学士	レクリエーション論

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	八木 成和 <平成31年4月> 教育学修士
		統計学 保健統計学
兼任	教授	矢羽野 陸男 <平成31年4月> 文学修士
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	教授	梁 先姫 <平成31年4月> 博士(商学)
		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ
兼任	教授	和田 謙一郎 <平成31年4月> 法学修士
		社会保障制度
兼任	准教授	上野 淳子 <平成31年4月> 博士(人間科学)
		ジェンダーの社会学
兼任	准教授	春名 麻季 <平成31年4月> 博士(法学)
		日本国憲法 法学入門 情報社会の法と倫理(リテラシー含む)

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	八木 成和 <平成31年4月> 教育学修士
		統計学 保健統計学
兼任	講師	山上 恵 <平成31年4月> 修士(中国文学)
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	講師	佐藤 由隆 <平成31年4月> 博士(文学)
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	教授	梁 先姫 <平成31年4月> 博士(商学)
		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ
兼任	教授	和田 謙一郎 <平成31年4月> 法学修士
		社会保障制度
兼任	講師	洪 ジョンウン <平成31年4月> 修士(文学)
		ジェンダーの社会学
兼任	准教授	春名 麻季 <平成31年4月> 博士(法学)
		日本国憲法 情報社会の法と倫理(リテラシー含む)
兼任	講師	植田 徹也 <平成31年4月> 学士(法学)
		法学入門

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	齊藤 徹介 <令和2年4月> 修士(人間科学)
		統計学
兼任	講師	山下 真宏 <令和2年4月> 学士(保険学)
		保健統計学
兼任	講師	山上 恵 <平成31年4月> 修士(中国文学)
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	教授	梁 先姫 <平成31年4月> 博士(商学)
		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ
兼任	教授	和田 謙一郎 <平成31年4月> 法学修士
		社会保障制度
兼任	講師	洪 ジョンウン <平成31年4月> 修士(文学)
		ジェンダーの社会学
兼任	教授	春名 麻季 <平成31年4月> 博士(法学)
		日本国憲法 情報社会の法と倫理(リテラシー含む)

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	齊藤 徹介 <令和2年4月> 修士(人間科学)
		統計学
兼任	講師	山上 恵 <平成31年4月> 修士(中国文学)
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	講師	鄭 真美 <令和3年4月> 博士(文学)
		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ
兼任	教授	和田 謙一郎 <平成31年4月> 法学修士
		社会保障制度
兼任	講師	洪 ジョンウン <平成31年4月> 修士(文学)
		ジェンダーの社会学

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 講師		武田 盛夫 <平成31年4月> 社会学士
		老人福祉論
兼任 講師		塚原 和人 <平成31年4月> 経済学士
		情報システム
兼任 講師		橋本 智也 <平成31年4月> 博士(文学)
		データ収集分析
兼任 講師		吉田 祐一郎 <平成31年4月> 修士(社会福祉学)
		児童福祉論
兼任 講師		ロバート ケリガン <平成31年4月> 修士(英語教育法学)
		上級英語Ⅰ 上級英語Ⅱ

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 講師		武田 盛夫 <平成31年4月> 社会学士
		老人福祉論
兼任 講師		塚原 和人 <平成31年4月> 経済学士
		情報システム
兼任 講師		橋本 智也 <平成31年4月> 博士(文学)
		データ収集分析
兼任 講師		明石 隆行 <平成31年4月> 修士(社会学)
		児童福祉論
兼任 講師		ロナルド バンデン <平成31年4月> 修士(理学)
		上級英語Ⅰ 上級英語Ⅱ
兼任 講師		田中 達也 <平成31年4月> 学士
		上級英語Ⅰ 上級英語Ⅱ
兼任 講師		カート ホーバソン <平成31年4月> 修士(教育学)
		上級英語Ⅰ 上級英語Ⅱ

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 講師		武田 盛夫 <平成31年4月> 社会学士
		老人福祉論
兼任 講師		塚原 和人 <平成31年4月> 経済学士
		情報システム
兼任 准教授		浅田 昇平 <令和2年4月> 修士(人間科学)
		データ収集分析
兼任 講師		波邊 慶一 <令和2年4月> 修士(社会福祉学)
		児童福祉論
兼任 講師		ロナルド バンデン <平成31年4月> 修士(理学)
		上級英語Ⅰ 上級英語Ⅱ 上級英語Ⅳ(英語論文読解)
兼任 講師		田中 達也 <平成31年4月> 学士
		上級英語Ⅰ 上級英語Ⅱ 上級英語Ⅲ(医療英語) 上級英語Ⅳ(英語論文読解)
兼任 講師		尾池 祥子 <令和2年4月> 学士(外国語学)
		上級英語Ⅰ 上級英語Ⅱ 上級英語Ⅳ(英語論文読解)

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 講師		玉置 好徳 <令和3年4月> 修士(社会福祉学)
		老人福祉論
兼任 講師		塚原 和人 <平成31年4月> 経済学士
		情報システム
兼任 准教授		浅田 昇平 <令和2年4月> 修士(人間科学)
		データ収集分析
兼任 講師		波邊 慶一 <令和2年4月> 修士(社会福祉学)
		児童福祉論

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	相原 進 <平成31年4月> 修士(社会学)
		現代日本の文化と社会
兼任	講師	新井 隆景 <平成31年4月> 工学博士
		科学技術と社会 先端技術
兼任	講師	飯田 陽子 <平成31年4月> 修士(文学)
		ドイツ語 I ドイツ語 II
兼任	講師	今中 基晴 <令和3年4月> 医学博士
		周産期医学
兼任	講師	岡谷 恵子 <令和2年4月> 博士(看護学)
		看護の歴史 看護政策 看護システムマネジメント論
兼任	講師	奥西 達也 <平成31年4月> 修士(経済学)
		政治学

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	相原 進 <平成31年4月> 修士(社会学)
		現代日本の文化と社会
兼任	講師	新井 隆景 <平成31年4月> 工学博士
		科学技術と社会 先端技術
兼任	講師	柴 亜矢子 <平成31年4月> 博士(ドイツ語学)
		ドイツ語 I ドイツ語 II
兼任	講師	今中 基晴 <令和3年4月> 医学博士
		周産期医学
兼任	講師	岡谷 恵子 <令和2年4月> 博士(看護学)
		看護の歴史 看護政策 看護システムマネジメント論
兼任	講師	奥西 達也 <平成31年4月> 修士(経済学)
		政治学

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	相原 進 <平成31年4月> 修士(社会学)
		現代日本の文化と社会
兼任	講師	新井 隆景 <平成31年4月> 工学博士
		科学技術と社会 先端技術
兼任	講師	柴 亜矢子 <平成31年4月> 博士(ドイツ語学)
		ドイツ語 I ドイツ語 II
兼任	講師	今中 基晴 <令和3年4月> 医学博士
		周産期医学
兼任	講師	岡谷 恵子 <令和2年4月> 博士(看護学)
		看護の歴史 看護政策 看護システムマネジメント論
兼任	講師	奥西 達也 <平成31年4月> 修士(経済学)
		政治学

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	齊藤 雅子 <令和3年4月> 修士(英語教授法)
		上級英語 I 上級英語 II
兼任	講師	相原 進 <平成31年4月> 修士(社会学)
		現代日本の文化と社会
兼任	講師	新井 隆景 <平成31年4月> 工学博士
		科学技術と社会 先端技術
兼任	講師	塩見 浩司 <令和3年4月> 修士(ドイツ文学)
		ドイツ語 I ドイツ語 II
兼任	講師	和田 卓磨 <令和3年4月> 博士(医学)
		周産期医学
兼任	教授	岡谷 恵子 <令和2年4月> 博士(看護学)
		看護の歴史 看護政策
兼任	講師	増野 園憲 <令和3年4月> 博士(看護学)
		看護システムマネジメント論
兼任	講師	奥西 達也 <平成31年4月> 修士(経済学)
		政治学

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
兼任	講師	木原 隆典 <平成31年4月> 修士(学術) 科学技術と社会 先端技術
兼任	講師	角 俊幸 <平成31年9月> 博士(医学) 疾病と治療Ⅱ
兼任	講師	田倉 智之 <令和3年4月> 博士(医学) 医療と経済
兼任	講師	中島 敦子 <令和2年9月> 博士(保健看護学) 養護概説 健康相談
兼任	講師	南 裕子 <令和2年9月> 看護学博士 キャリアマネジメント
兼任	講師	南谷 恵敬 <平成31年4月> 修士(芸術学) 仏教芸術入門
兼任	講師	古角 好美 <令和2年4月> 修士(教育学) 学校保健論 養護実習
兼任	教授	山本 誠 <平成31年4月> 文学修士 文化人類学

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
兼任	講師	木原 隆典 <平成31年4月> 修士(学術) 科学技術と社会 先端技術
兼任	講師	角 俊幸 <平成31年9月> 博士(医学) 疾病と治療Ⅱ
兼任	講師	田倉 智之 <令和3年4月> 博士(医学) 医療と経済
兼任	講師	中島 敦子 <令和2年9月> 博士(保健看護学) 養護概説 健康相談
兼任	講師	南 裕子 <令和2年9月> 看護学博士 キャリアマネジメント
兼任	講師	南谷 恵敬 <平成31年4月> 修士(芸術学) 仏教芸術入門
兼任	講師	古角 好美 <令和2年4月> 修士(教育学) 学校保健論 養護実習
兼任	教授	山本 誠 <平成31年4月> 文学修士 文化人類学

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
兼任	講師	木原 隆典 <平成31年4月> 修士(学術) 科学技術と社会 先端技術
兼任	講師	角 俊幸 <平成31年9月> 博士(医学) 疾病と治療Ⅱ
兼任	講師	田倉 智之 <令和3年4月> 博士(医学) 医療と経済
兼任	講師	中島 敦子 <令和2年9月> 博士(保健看護学) 養護概説 健康相談
兼任	講師	南 裕子 <令和2年9月> 看護学博士 キャリアマネジメント
兼任	講師	南谷 恵敬 <平成31年4月> 修士(芸術学) 仏教芸術入門
兼任	講師	古角 好美 <令和2年4月> 修士(教育学) 学校保健論 養護実習
兼任	教授	山本 誠 <平成31年4月> 文学修士 文化人類学

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
兼任	講師	木原 隆典 <平成31年4月> 修士(学術) 科学技術と社会 先端技術
兼任	講師	角 俊幸 <平成31年9月> 博士(医学) 疾病と治療Ⅱ
兼任	講師	田倉 智之 <令和3年4月> 博士(医学) 医療と経済
兼任	講師	中島 敦子 <令和2年9月> 博士(保健看護学) 養護概説 健康相談 養護実習
兼任	講師	吉川 恵美 <令和3年4月> 博士(保健看護学) 学校保健論
兼任	教授	田原 範子 <令和3年4月> 文学博士 文化人類学

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
 ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
 その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(み)、兼任、兼任の順に記入してください)。
 ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除し、結めてください。

【令和4年度】(旧カリキュラム)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	赤井 由紀子 <平成31年4月> 博士(保健看護学) 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 母性生活支援技術演習 母性生活支援実習 課題研究 統合実習 助産概論 助産診断・技術Ⅰ 助産診断・技術Ⅱ 助産診断・技術Ⅲ 助産技術演習Ⅰ 助産技術演習Ⅱ 助産管理論 助産実習
専	教授	宇佐美 しおり <平成31年4月> 博士(看護学) 精神保健 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) ケースマネジメントと多職種連携 精神健康と生活支援 精神療養生活支援技術演習 精神療養生活支援実習 課題研究 統合実習
兼任	講師	小島 葉子 <令和3年4月> 博士(医学) 精神保健
専	教授	大橋 純子 <平成31年4月> 博士(人間健康科学) 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 在宅療養生活支援論 在宅療養生活支援技術演習 家族の健康課題と生活支援 在宅療養生活支援実習 課題研究 統合実習
専	教授	鈴木 眞知子 <平成31年4月> 博士(看護学) 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 成育生活支援論 成育療養生活支援技術演習 成育療養生活支援実習 課題研究 統合実習

【令和4年度】(新カリキュラム)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	赤井 由紀子 <平成31年4月> 博士(保健看護学) 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ)
専	教授	宇佐美 しおり <平成31年4月> 博士(看護学) 精神保健 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) ケースマネジメントと多職種連携 精神健康と生活支援 精神療養生活支援技術演習 精神療養生活支援実習 課題研究 統合実習
兼任	講師	小島 葉子 <令和3年4月> 博士(医学) 精神保健
専	教授	大橋 純子 <平成31年4月> 博士(人間健康科学) 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 在宅療養生活支援論 在宅療養生活支援技術演習 家族の健康課題と生活支援 在宅療養生活支援実習 課題研究 統合実習
専	教授	鈴木 眞知子 <平成31年4月> 博士(看護学) 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ)

【令和4年度】(旧カリキュラム)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	西田 真壽美 <平成31年4月> 博士(保健学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援論(成人・高齢者) 療養生活支援技術演習Ⅱ 療養生活支援実習Ⅲ(老化に伴う健康課題) 看護研究法 課題研究 統合実習
兼任	教授	高橋(田代) 照子 <令和3年4月> Doctor of Philosophy in Nursing(米國)
		看護概論
専	教授	乗越 千枝 <令和2年4月> 博士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 在宅療養生活支援論 在宅療養生活支援技術演習 在宅療養生活支援実習 家族の健康課題と生活支援 課題研究 統合実習 生活健康論
専	教授	福田 和明 <平成31年4月> 博士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援論(成人・高齢者) 看護治療技術演習 療養生活支援技術演習Ⅰ 療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期) 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 課題研究 統合実習
専	教授	藤原 尚子 <令和2年4月> 博士(保健学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 看護治療技術演習 療養生活支援技術演習Ⅰ 療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期) 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 課題研究 統合実習
専	教授	山田 和子 <平成31年4月> 博士(保健医療学) 博士(医学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 地域生活支援論 地域生活支援技術論 地域生活支援技術演習Ⅰ 地域生活支援技術演習Ⅱ 健康教育論 課題研究 統合実習 地域生活支援実習

【令和4年度】(新カリキュラム)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	西田 真壽美 <平成31年4月> 博士(保健学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ)
兼任	教授	高橋(田代) 照子 <令和3年4月> Doctor of Philosophy in Nursing(米國)
		看護概論
専	教授	乗越 千枝 <令和2年4月> 博士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 在宅療養生活支援論 在宅療養生活支援技術演習 在宅療養生活支援実習 家族の健康課題と生活支援 課題研究 統合実習 生活健康論
専	教授	福田 和明 <平成31年4月> 博士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援論(成人・高齢者) 看護治療技術演習 療養生活支援技術演習Ⅰ 療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期) 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 課題研究 統合実習
専	教授	藤原 尚子 <令和2年4月> 博士(保健学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 看護治療技術演習 療養生活支援技術演習Ⅰ 療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期) 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 課題研究 統合実習
専	教授	山田 和子 <平成31年4月> 博士(保健医療学) 博士(医学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ)

【令和4年度】(旧カリキュラム)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	小西 玲奈 <令和4年4月> 博士(看護学) 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) フィジカルアセスメント 生活支援技術演習 療養生活支援基礎実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	准教授	亀井 緑 <平成31年4月> 博士(看護学) 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 グローバルヘルスと国際看護 在宅療養生活支援実習 災害看護支援技術演習 国際看護フィールドワーク 課題研究 看護管理実習 統合実習 災害看護支援論

【令和4年度】(新カリキュラム)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	小西 玲奈 <令和4年4月> 博士(看護学) 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) フィジカルアセスメント 生活支援技術演習 療養生活支援基礎実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	准教授	亀井 緑 <平成31年4月> 博士(看護学) 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 グローバルヘルスと国際看護 在宅療養生活支援実習 災害看護支援技術演習 国際看護フィールドワーク 課題研究 看護管理実習 統合実習 災害看護支援論

【令和4年度】(旧カリキュラム)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	後任未定 <令和4年9月>
		保健行動論
兼任	講師	奥野 久美子 <令和4年9月> 修士(保健学)
		産業保健論
専	准教授	坂口 京子 <平成31年4月> 博士(看護学)
		ライフサイクルにおける発達課題と健康 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) フィジカルアセスメント 生活支援技術演習 療養生活支援基礎実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習 生活支援論
専	准教授	得居 みのり <令和2年4月> 修士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援技術演習Ⅱ 療養生活支援基礎実習 療養生活支援実習Ⅲ(老化に伴う健康課題) 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	准教授	宮本 雅子 <平成31年4月> 博士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 女性の発達課題と健康 母性生活支援技術演習 母性生活支援実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習 助産概論 助産技術演習Ⅰ 助産技術演習Ⅱ 助産管理論 助産実習
専	准教授	吉川 有葵 <平成31年4月> 博士(人間健康科学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 看護治療技術演習 療養生活支援技術演習Ⅰ 療養生活支援基礎実習 療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期) 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	講師	岩佐 美香 <平成31年4月> 修士(人間科学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) フィジカルアセスメント 生活支援技術演習 療養生活支援基礎実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習

【令和4年度】(新カリキュラム)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	後任未定 <令和4年9月>
		保健行動論
専	准教授	坂口 京子 <平成31年4月> 博士(看護学)
		ライフサイクルにおける発達課題と健康 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 生活支援論
専	准教授	得居 みのり <令和2年4月> 修士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援技術演習Ⅱ 療養生活支援基礎実習 療養生活支援実習Ⅲ(老化に伴う健康課題) 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	准教授	宮本 雅子 <平成31年4月> 博士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 女性の発達課題と健康 母性生活支援技術演習 母性生活支援実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習 助産学概論 助産技術学演習Ⅰ 助産技術学演習Ⅱ 助産管理論 助産実習
専	准教授	吉川 有葵 <平成31年4月> 博士(人間健康科学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 看護治療技術演習 療養生活支援技術演習Ⅰ 療養生活支援基礎実習 療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期) 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	講師	岩佐 美香 <平成31年4月> 修士(人間科学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) フィジカルアセスメント 生活支援技術演習 療養生活支援基礎実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習

【令和4年度】(旧カリキュラム)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	川田 陽子 <平成31年4月> 修士(看護学)
		コミュニケーション論 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 精神療養生活支援技術演習 在宅療養生活支援実習 精神療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	講師	而元 康世 <平成31年4月> 博士(保健学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 成育療養生活支援技術演習 成育療養生活支援実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習 成育生活支援論
専	講師	藤澤 盛樹 <平成31年4月> 博士(教育学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 成育療養生活支援技術演習 成育療養生活支援実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習 成育生活支援論
専	講師	穂迫 享子 <平成31年4月> 修士(学術)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 母性生活支援技術演習 母性生活支援実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習 助産診断・技術Ⅰ 助産診断・技術Ⅱ 助産診断・技術Ⅲ 助産技術演習Ⅰ 助産技術演習Ⅱ 助産実習
専	助教	入江 眞理 <令和2年4月> 修士(学術)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 療養生活支援基礎実習 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 母性生活支援技術演習 母性生活支援実習 成育療養生活支援実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習 助産技術演習Ⅰ 助産技術演習Ⅱ 助産実習

【令和4年度】(新カリキュラム)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	川田 陽子 <平成31年4月> 修士(看護学)
		コミュニケーション論 初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 精神療養生活支援技術演習 在宅療養生活支援実習 精神療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	講師	而元 康世 <平成31年4月> 博士(保健学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 成育療養生活支援技術演習 成育療養生活支援実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習 成育生活支援論
専	講師	藤澤 盛樹 <平成31年4月> 博士(教育学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 成育療養生活支援技術演習 成育療養生活支援実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習 成育生活支援論
専	講師	穂迫 享子 <平成31年4月> 修士(学術)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 母性生活支援技術演習 母性生活支援実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習 助産診断・技術学Ⅰ 助産診断・技術学Ⅱ 助産診断・技術学Ⅲ 助産技術学演習Ⅰ 助産技術学演習Ⅱ 助産実習
専	助教	入江 眞理 <令和2年4月> 修士(学術)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 療養生活支援基礎実習 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 母性生活支援技術演習 母性生活支援実習 成育療養生活支援実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習 助産技術学演習Ⅰ

【令和4年度】(旧カリキュラム)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	加藤 由加 <平成31年4月> 修士(学術)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 看護治療技術演習 療養生活支援技術演習Ⅰ 療養生活支援基礎実習 療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期) 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
専	助教	松橋 美奈 <令和3年4月> 修士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 療養生活支援基礎実習 精神療養生活支援技術演習 精神療養生活支援実習 看護管理実習 統合実習
専	助教	眞壁 美香 <平成31年4月> 修士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 療養生活支援基礎実習 在宅療養生活支援技術演習 在宅療養生活支援実習 地域生活支援技術論 地域生活支援技術演習Ⅰ 地域生活支援技術演習Ⅱ 健康教育論 課題研究 看護管理実習 統合実習 地域生活支援実習
専	助教	松井 博子 <令和3年4月> 修士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 療養生活支援基礎実習 母性生活支援技術演習 母性生活支援実習 成育療養生活支援実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習 助産技術演習Ⅰ 助産技術演習Ⅱ 助産実習
専	助教	宮崎 志保 <平成31年4月> 修士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習 精神療養生活支援技術演習 在宅療養生活支援実習 精神療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習

【令和4年度】(新カリキュラム)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	加藤 由加 <平成31年4月> 修士(学術)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 看護治療技術演習 療養生活支援基礎実習
専	助教	松橋 美奈 <令和3年4月> 修士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 療養生活支援基礎実習 精神療養生活支援技術演習 精神療養生活支援実習 看護管理実習 統合実習
専	助教	眞壁 美香 <平成31年4月> 修士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 療養生活支援基礎実習 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 療養生活支援基礎実習 在宅療養生活支援技術演習 健康教育論
専	助教	松井 博子 <令和3年4月> 修士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 療養生活支援基礎実習 母性生活支援技術演習 母性生活支援実習 成育療養生活支援実習 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習 助産技術演習Ⅰ 助産技術演習Ⅱ 助産実習
専	助教	宮崎 志保 <平成31年4月> 修士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 療養生活支援基礎実習

【令和4年度】(旧カリキュラム)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 助教		吉本 和樹 <平成31年4月> 修士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 療養生活支援技術演習Ⅱ 療養生活支援基礎実習 療養生活支援実習Ⅱ(慢性期) 療養生活支援実習Ⅲ(老化に伴う健康課題) 在宅療養生活支援実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
兼任 講師		中田 貴真 <令和3年4月> 修士(現代語現代文学)
		上級英語Ⅲ(医療英語)
兼任 講師		後任未定 <令和4年9月>
		上級英語Ⅳ(英語論文読解)
兼任 講師		後任未定 <令和4年9月>
		上級英語Ⅳ(英語論文読解)
兼任 講師		後任未定 <令和4年9月>
		上級英語Ⅳ(英語論文読解)
兼任 助教		上野 舞斗 <令和3年4月> 修士(教育学)
		上級英語Ⅲ(医療英語)
兼任 教授		須原 祥二 <令和4年4月> 博士(文学)
		和の精神Ⅰ 和の精神Ⅱ
兼任 講師		松村 靖夫 <令和3年4月> 医学博士
		薬理学
兼任 教授		奥野 孝昭 <平成31年4月> 体育学士
		レクリエーション論

【令和4年度】(新カリキュラム)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 助教		吉本 和樹 <平成31年4月> 修士(看護学)
		初期実習Ⅰ(生活をみる) 初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践) 療養生活支援基礎実習
兼任 講師		中田 貴真 <令和3年4月> 修士(現代語現代文学)
		上級英語Ⅲ(医療英語)
兼任 助教		上野 舞斗 <令和3年4月> 修士(教育学)
		上級英語Ⅲ(医療英語)
兼任 教授		須原 祥二 <令和4年4月> 博士(文学)
		和の精神Ⅰ 和の精神Ⅱ
兼任 講師		松村 靖夫 <令和3年4月> 医学博士
		薬理学
兼任 教授		奥野 孝昭 <平成31年4月> 体育学士
		レクリエーション論

【令和4年度】(旧カリキュラム)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	岡部 修一 <平成31年4月> 学士(体育学)
		スポーツⅠ スポーツⅡ
兼任	講師	森 祐貴 <令和3年4月> 修士(体育学)
		スポーツⅠ
兼任	講師	美 美香 <令和3年4月> 博士(社会福祉学)
		社会福祉概論
兼任	教授	加藤 彰彦 <平成31年4月> 文学修士
		現代思想入門 構造主義入門
兼任	講師	岡田 純子 <令和3年4月> 修士(文学)
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ
兼任	教授	木村 三千世 <平成31年4月> 修士(経営学)
		地域活性化概論
兼任	教授	伊藤 重男 <令和2年4月> 修士(経営学)
		地域活性化概論
兼任	講師	津崎 克彦 <令和2年4月> 修士(経営学)
		地域活性化概論
兼任	准教授	吉田 祐一郎 <令和2年4月> 修士(社会福祉学)
		地域活性化概論
兼任	教授	天野 了一 <令和2年4月> 修士(経営学)
		地域活性化概論
兼任	准教授	岡田 孝 <令和2年4月> 修士(経営学)
		地域活性化概論

【令和4年度】(新カリキュラム)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	岡部 修一 <平成31年4月> 学士(体育学)
		スポーツⅠ スポーツⅡ
兼任	講師	森 祐貴 <令和3年4月> 修士(体育学)
		スポーツⅠ
兼任	講師	美 美香 <令和3年4月> 博士(社会福祉学)
		社会福祉概論
兼任	教授	加藤 彰彦 <平成31年4月> 文学修士
		現代思想入門 構造主義入門
兼任	講師	岡田 純子 <令和3年4月> 修士(文学)
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ
兼任	教授	木村 三千世 <平成31年4月> 修士(経営学)
		地域活性化概論
兼任	教授	伊藤 重男 <令和2年4月> 修士(経営学)
		地域活性化概論
兼任	講師	津崎 克彦 <令和2年4月> 修士(経営学)
		地域活性化概論
兼任	准教授	吉田 祐一郎 <令和2年4月> 修士(社会福祉学)
		地域活性化概論
兼任	教授	天野 了一 <令和2年4月> 修士(経営学)
		地域活性化概論
兼任	准教授	岡田 孝 <令和2年4月> 修士(経営学)
		地域活性化概論

【令和4年度】（旧カリキュラム）

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	間辺 広樹 <令和3年4月> 博士(工学)
		情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ データ収集分析
兼任	助教	本多 佑希 <令和3年4月> 修士(工学)
		情報処理演習Ⅱ データ収集分析
兼任	教授	久保 正二 <令和4年4月> 医学博士
		生物学 病態生理学 栄養と代謝 疾病と治療Ⅱ 疾病と治療Ⅲ
兼任	教授	仲谷 和記 <平成31年4月> 博士(医学)
		人体の構造と機能Ⅰ 人体の構造と機能Ⅱ 疾病と治療Ⅰ

【令和4年度】（新カリキュラム）

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	間辺 広樹 <令和3年4月> 博士(工学)
		情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ データ収集分析
兼任	助教	本多 佑希 <令和3年4月> 修士(工学)
		情報処理演習Ⅱ データ収集分析
兼任	教授	久保 正二 <令和4年4月> 医学博士
		生物学 病態生理学 栄養と代謝 疾病と治療Ⅱ 疾病と治療Ⅲ
兼任	教授	仲谷 和記 <平成31年4月> 博士(医学)
		人体の構造と機能Ⅰ 人体の構造と機能Ⅱ 疾病と治療Ⅰ

【令和4年度】(旧カリキュラム)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	大西 敏浩 <令和3年4月> 学士(社会福祉)
		障害者福祉
兼任	講師	四辻 厚 <令和3年4月> 学士(法学)
		現代社会と人権
兼任	教授	藤谷 厚生 <平成31年4月> 文学修士
		仏教概説 仏教実践演習 聖徳太子概説 現代社会と仏教
兼任	准教授	奥羽 充規 <令和2年4月> 修士(教育学)
		仏教実践演習
兼任	講師	奥田 かよ子 <令和4年4月> 博士(文学)
		上級英語Ⅲ(医療英語)
兼任	講師	西岡 秀爾 <令和2年4月> 修士(仏教学)
		仏教実践演習
兼任	講師	竹中 利彦 <平成31年4月> 博士(文学)
		哲学入門 情報社会の法と倫理(リテラシー含む)
兼任	教授	松本 珠希 <平成31年4月> 博士(人間・環境学)
		疫学 国際保健学
兼任	教授	茂木 洋 <平成31年4月> 教育学修士
		臨床心理学
兼任	講師	中村 隆行 <平成31年4月> 修士(文学)
		心理学Ⅰ
兼任	講師	田中 秀男 <平成31年4月> 博士(心理学)
		心理学Ⅱ

【令和4年度】(新カリキュラム)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	大西 敏浩 <令和3年4月> 学士(社会福祉)
		障害者福祉
兼任	講師	四辻 厚 <令和3年4月> 学士(法学)
		現代社会と人権
兼任	教授	藤谷 厚生 <平成31年4月> 文学修士
		仏教概説 仏教実践演習 聖徳太子概説 現代社会と仏教
兼任	准教授	奥羽 充規 <令和2年4月> 修士(教育学)
		仏教実践演習
兼任	講師	西岡 秀爾 <令和2年4月> 修士(仏教学)
		仏教実践演習
兼任	講師	竹中 利彦 <平成31年4月> 博士(文学)
		哲学入門 情報社会の法と倫理(リテラシー含む)
兼任	教授	松本 珠希 <平成31年4月> 博士(人間・環境学)
		疫学 国際保健学
兼任	教授	茂木 洋 <平成31年4月> 教育学修士
		臨床心理学
兼任	講師	中村 隆行 <平成31年4月> 修士(文学)
		心理学Ⅰ
兼任	講師	田中 秀男 <平成31年4月> 博士(心理学)
		心理学Ⅱ

【令和4年度】(旧カリキュラム)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	尾藤 央延 <令和4年4月> 修士(人間科学)
		統計学
兼任	講師	山上 恵 <平成31年4月> 修士(中国文学)
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	講師	関 淳壹 <令和4年4月> 修士(文学)
		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ
兼任	教授	和田 謙一郎 <平成31年4月> 法学修士
		社会保障制度
兼任	講師	洪 ジョンウン <平成31年4月> 修士(文学)
		ジェンダーの社会学

【令和4年度】(新カリキュラム)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	尾藤 央延 <令和4年4月> 修士(人間科学)
		統計学
兼任	講師	山上 恵 <平成31年4月> 修士(中国文学)
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	講師	関 淳壹 <令和4年4月> 修士(文学)
		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ
兼任	教授	和田 謙一郎 <平成31年4月> 法学修士
		社会保障制度
兼任	講師	洪 ジョンウン <平成31年4月> 修士(文学)
		ジェンダーの社会学

【令和4年度】(旧カリキュラム)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	森 暁洋 <令和2年4月> 修士(法学)
		法学入門
兼任	講師	宇佐美 和希 <令和4年4月> 法務博士
		日本国憲法
兼任	講師	越智 祐光 <平成31年4月> 修士(教育学)
		スポーツI スポーツII
兼任	講師	山下 新樹 <平成31年4月> 修士(人間文化学)
		スポーツI スポーツII
兼任	講師	塩田 正之 <平成31年4月> 博士(農学)
		生命の科学
兼任	講師	都留 浩子 <令和4年4月> 博士(医学)
		環境の科学
兼任	講師	寺中 直人 <令和3年4月> 修士(経済学)
		社会福祉行政
兼任	講師	林 正幸 <令和2年4月> 博士(医学)
		保健行政論 保健統計学

【令和4年度】(新カリキュラム)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	森 暁洋 <令和2年4月> 修士(法学)
		法学入門
兼任	講師	宇佐美 和希 <令和4年4月> 法務博士
		日本国憲法
兼任	講師	越智 祐光 <平成31年4月> 修士(教育学)
		スポーツI スポーツII
兼任	講師	山下 新樹 <平成31年4月> 修士(人間文化学)
		スポーツI スポーツII
兼任	講師	塩田 正之 <平成31年4月> 博士(農学)
		生命の科学
兼任	講師	都留 浩子 <令和4年4月> 博士(医学)
		環境の科学
兼任	講師	寺中 直人 <令和3年4月> 修士(経済学)
		社会福祉行政
兼任	講師	林 正幸 <令和2年4月> 博士(医学)
		保健行政論

【令和4年度】（旧カリキュラム）

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	玉置 好徳 <令和3年4月> 修士(社会福祉学) 老人福祉論
兼任	講師	塚原 和人 <平成31年4月> 経済学士 情報システム
兼任	講師	渡邊 慶一 <令和2年4月> 修士(社会福祉学) 児童福祉論

【令和4年度】（新カリキュラム）

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	玉置 好徳 <令和3年4月> 修士(社会福祉学) 老人福祉論
兼任	講師	塚原 和人 <平成31年4月> 経済学士 情報システム
兼任	講師	渡邊 慶一 <令和2年4月> 修士(社会福祉学) 児童福祉論

【令和4年度】(旧カリキュラム)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	青藤 裕己 <令和4年4月> 修士(英文学)
		上級英語 I 上級英語 II
兼任	講師	孫工 季也 <令和4年4月> 修士(教育学)
		上級英語 I 上級英語 II
兼任	講師	羽尾 将司 <令和4年4月> 修士(外国語教育学)
		上級英語 I 上級英語 II
兼任	講師	相原 進 <平成31年4月> 修士(社会学)
		現代日本の文化と社会
兼任	講師	新井 隆景 <平成31年4月> 工学博士
		科学技術と社会 先端技術
兼任	講師	塩見 浩司 <令和3年4月> 修士(ドイツ文学)
		ドイツ語 I ドイツ語 II
兼任	講師	和田 卓磨 <令和3年4月> 博士(医学)
		周産期医学
専任 (学部長)	教授	岡谷 恵子 <令和2年4月> 博士(看護学)
		看護の歴史 看護政策 看護概論 看護と倫理 初期実習 I (生活をみる) 初期実習 II (コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ) フィジカルアセスメント 生活支援技術演習 職業生活支援基礎実習 課題研究 看護管理実習 統合実習
兼任	講師	増野 圓憲 <令和3年4月> 博士(看護学)
		看護システムマネジメント論
兼任	講師	奥西 達也 <平成31年4月> 修士(経済学)
		政治学

【令和4年度】(新カリキュラム)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	青藤 裕己 <令和4年4月> 修士(英文学)
		上級英語 I 上級英語 II
兼任	講師	孫工 季也 <令和4年4月> 修士(教育学)
		上級英語 I 上級英語 II
兼任	講師	羽尾 将司 <令和4年4月> 修士(外国語教育学)
		上級英語 I 上級英語 II
兼任	講師	相原 進 <平成31年4月> 修士(社会学)
		現代日本の文化と社会
兼任	講師	新井 隆景 <平成31年4月> 工学博士
		科学技術と社会 先端技術
兼任	講師	塩見 浩司 <令和3年4月> 修士(ドイツ文学)
		ドイツ語 I ドイツ語 II
兼任	講師	和田 卓磨 <令和3年4月> 博士(医学)
		周産期医学
専任 (学部長)	教授	岡谷 恵子 <令和2年4月> 博士(看護学)
		看護概論 初期実習 I (生活をみる) 初期実習 II (コミュニケーションの実践) 大学基礎演習(看護基礎ゼミ)
兼任	講師	増野 圓憲 <令和3年4月> 博士(看護学)
		看護システムマネジメント論
兼任	講師	奥西 達也 <平成31年4月> 修士(経済学)
		政治学

【令和4年度】(旧カリキュラム)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	木原 隆典 <平成31年4月> 修士(学術)
		科学技術と社会 先端技術
兼任	講師	角 俊幸 <平成31年9月> 博士(医学)
		疾病と治療Ⅱ
兼任	講師	田倉 智之 <令和3年4月> 博士(医学)
		医療と経済
兼任	講師	中島 敦子 <令和2年9月> 博士(保健看護学)
		養護概説 健康相談
兼任	講師	加藤 直子 <令和4年9月> 修士(学校教育学)
		養護実習
兼任	講師	後任未定 <令和4年9月>
		キャリアマネジメント
兼任	講師	古川 恵美 <令和3年4月> 博士(保健看護学)
		学校保健論
兼任	教授	田原 範子 <令和3年4月> 文学博士
		文化人類学
兼任	講師	佐藤 由恵 <令和4年4月> 学士(看護学)
		成育療養生活支援技術演習
兼任	講師	南 朋子 <令和4年4月> 学士(看護学)
		成育療養生活支援技術演習

【令和4年度】(新カリキュラム)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	木原 隆典 <平成31年4月> 修士(学術)
		科学技術と社会 先端技術
兼任	講師	角 俊幸 <平成31年9月> 博士(医学)
		疾病と治療Ⅱ
兼任	講師	田倉 智之 <令和3年4月> 博士(医学)
		医療と経済
兼任	講師	中島 敦子 <令和2年9月> 博士(保健看護学)
		養護概説 健康相談
兼任	講師	加藤 直子 <令和4年9月> 修士(学校教育学)
		養護実習
兼任	講師	古川 恵美 <令和3年4月> 博士(保健看護学)
		学校保健論
兼任	教授	田原 範子 <令和3年4月> 文学博士
		文化人類学
兼任	講師	佐藤 由恵 <令和4年4月> 学士(看護学)
		成育療養生活支援技術演習
兼任	講師	南 朋子 <令和4年4月> 学士(看護学)
		成育療養生活支援技術演習

【令和3年度】

- ・教育内容充実のため、亀井専任准教授の担当授業科目に「災害看護支援論」を追加（令和2年5月AC教員審査済）
- ・教育内容充実のため、山元康世専任講師の担当授業科目に「成育生活支援論」を追加（令和2年12月AC教員審査済）
- ・教育内容充実のため、藤澤盛樹専任講師の担当授業科目に「成育生活支援論」を追加（令和2年12月AC教員審査済）
- ・教育内容充実のため、「精神保健」の担当教員に小高葉子兼任講師を追加
- ・令和3年4月1日、松橋美奈専任助教就任。また、西井尚子専任助教の退職に伴い、担当授業科目に「初期実習Ⅰ（生活をみる）」「初期実習Ⅱ（コミュニケーションの実践）」「療養生活支援基礎実習」「精神療養生活支援技術演習」「精神療養生活支援実習」「看護管理実習」「統合実習」を変更（令和2年12月AC教員審査済）。「在宅療養生活支援実習」「課題研究」を削除
- ・和田（吉川）恵美子専任教授の退職に伴い、担当授業科目「看護概論」を高橋（田代）照子兼任教授へ変更
- ・和田（吉川）恵美子専任教授の退職に伴い、担当授業科目「生活支援論」を坂口京子専任准教授へ変更（令和2年9月AC教員審査済）
- ・退職に伴い、和田（吉川）恵美子専任教授の担当授業科目「初期実習Ⅰ（生活をみる）」「初期実習Ⅱ（コミュニケーションの実践）」「大学基礎演習（看護基礎ゼミ）」「フィジカルアセスメント」「生活支援技術演習」「療養生活支援基礎実習」「課題研究」「看護管理実習」「統合実習」を削除
- ・教育的効果を考慮し、岩尾洋兼担教授の担当授業科目「薬理学」を松村靖夫兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、脇田寛史兼任講師の担当授業科目「社会福祉概論」を委美香兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、ペレバトリス兼任講師の担当授業科目「フランス語Ⅰ」「フランス語Ⅱ」を岡田純子兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、原順子兼任教授の担当授業科目「障害者福祉」を大西敏浩兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、平川茂兼担教授の担当授業科目「現代社会と人権」を四辻厚兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、戸部史子兼任講師、田中達也兼任講師、若林英男兼任講師の「上級英語Ⅲ（医療英語）」を奥野充規兼任准教授、中田貴真兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、ロナルド・バンデン兼任講師、田中達也兼任講師、尾池祥子兼任講師の「上級英語Ⅳ（英語論文読解）」を奥野充規兼任准教授、中田貴真兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、山下真宏兼任講師の担当授業科目「保健統計学」を林正幸兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、梁先姫兼担教授の担当授業科目「ロシア語Ⅰ」「ロシア語Ⅱ」を鄭貞美兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、春名麻季兼担教授の担当授業科目「日本国憲法」を竹内大樹兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、春名麻季兼担教授の担当授業科目「情報社会の法と倫理（リテラシー含む）」を竹中利彦兼任講師へ変更
- ・教育内容充実のため、「スポーツⅠ」の担当教員に森祐貴兼任講師を追加
- ・教育的効果を考慮し、坂本光徳兼任講師の担当授業科目「社会福祉行政」を寺中直人兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、武田盛夫兼担講師の担当授業科目「老人福祉論」を玉置好徳兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、ロナルド・バンデン兼任講師、田中達也兼任講師、尾池祥子兼任講師の「上級英語Ⅰ」「上級英語Ⅱ」を上野舞斗兼担助教、斉藤雅子兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、柴亜矢子兼任講師の担当授業科目「ドイツ語Ⅰ」「ドイツ語Ⅱ」を塩見浩司兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、今中基晴兼任講師の担当授業科目「周産期医学」を和田卓磨兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、古角好美兼任講師の担当授業科目「学校保健論」を古川恵美兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、古角好美兼任講師の担当授業科目「看護実習」を中島教子兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、梅原恵子兼任講師、酒井真紀兼任講師の担当授業科目「情報処理演習Ⅰ」を東隆史兼担教授へ変更
- ・教育的効果を考慮し、梅原恵子兼任講師、高田朋子兼任講師、矢倉麻里子兼任講師の担当授業科目「情報処理演習Ⅱ」を岡田広樹兼担教授、本多佑希兼担助教へ変更
- ・教育的効果を考慮し、岡谷兼任講師の担当授業科目「看護システムマネジメント論」を増野園恵兼任講師へ変更
- ・山本誠兼担教授の退職に伴い、担当授業科目「文化人類学」を田原範子兼担教授へ変更
- ・池内香織専任准教授が学位を取得したため、修士（看護学）から博士（人間健康科学）へ変更
- ・藤澤盛樹専任講師が学位を取得したため、修士（看護学）から博士（教育学）へ変更
- ・天野一氏の職名を准教授から教授へ変更する
- ・小出恵子准教授の退職に伴い、「保健行動論」「産業保健論」は兼担もしくは兼任教員を充てる予定。「地域生活支援技術論」は兼任講師として担当へ変更する。また、「初期実習Ⅰ（生活をみる）」「初期実習Ⅱ（コミュニケーションの実践）」「大学基礎演習（看護基礎ゼミ）」「療養生活支援基礎実習」「在宅療養生活支援実習」「地域生活支援技術演習Ⅰ」「地域生活支援技術演習Ⅱ」「健康教育論」「課題研究」「看護管理実習」「統合実習」「地域生活支援実習」を削除
- ・令和3年4月1日に岡谷恵子氏の採用に伴い、兼任講師から兼担教授へ変更。
- ・奥野暢通兼担教授の退職に伴い、担当授業科目「体育講義」を未開講
- ・南裕子兼任講師の担当授業科目「キャリアマネジメント」の担当教員は、兼担もしくは兼任教員に変更する予定

【令和4年度】

<p><旧カリキュラム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・山本あい子専任教授の退職に伴い、担当授業科目「初期実習Ⅰ(生活をみる)」「初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践)」「看護と倫理」「災害看護支援論」「災害看護支援技術演習」「国際看護フィールドワーク」を削除 ・池内香織専任准教授の退職に伴い、担当授業科目「初期実習Ⅰ(生活をみる)」「初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践)」「大学基礎演習(看護基礎ゼミ)」「フィジカルアセスメント」「生活支援技術演習」「療養生活支援基礎実習」「在宅療養生活支援実習」「課題研究」「看護管理実習」「統合実習」を削除 ・小西玲奈専任助教就任に伴い、担当授業科目に「初期実習Ⅰ(生活をみる)」「初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践)」「大学基礎演習(看護基礎ゼミ)」「フィジカルアセスメント」「生活支援技術演習」「療養生活支援基礎実習」「在宅療養生活支援実習」「課題研究」「看護管理実習」「統合実習」を追加(令和3年12月AC教員審査済) ・小出恵子兼任講師の退職に伴い、担当授業科目「地域生活支援技術論」を削除 ・教育内容充実のため、「保健行動論」の担当教員に兼任講師(令和4年9月採用予定)を追加 ・教育内容充実のため、「産業保健論」の担当教員に奥野久美子兼任講師を追加 ・松田常美専任講師の退職に伴い、担当授業科目「初期実習Ⅰ(生活をみる)」「初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践)」「大学基礎演習(看護基礎ゼミ)」「看護治療技術演習」「療養生活支援技術演習Ⅰ」「療養生活支援基礎実習」「療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期)」「療養生活支援実習Ⅱ(慢性期)」「課題研究」「看護管理実習」「統合実習」を削除 ・教育的效果を考慮し、中田貴貞兼任講師、奥羽充規兼准教授の担当授業科目「上級英語Ⅳ(英語論文読解)」を兼任講師3人(令和4年9月採用予定)へ変更 ・教育的效果を考慮し、上野舞斗兼助教、齊藤雅子兼任講師の担当授業科目「上級英語Ⅰ」「上級英語Ⅱ」を齊藤裕己兼任講師、孫工季也兼任講師、羽尾将司兼任講師へ変更 ・教育的效果を考慮し、奥羽充規兼准教授の担当授業科目「上級英語Ⅲ(医療英語)」を柴田かよ子兼任講師、上野舞斗兼助教へ変更 ・岩尾洋兼教授の退職に伴い、担当授業科目「和の精神Ⅰ」「和の精神Ⅱ」を須原祥二兼助教へ変更 ・教育的效果を考慮し、東隆史兼任講師の担当授業科目「情報処理演習Ⅰ」を間辺広樹兼助教へ変更 ・教育内容の充実のため、浅田昇平兼准教授の担当授業科目「データ収集分析」を間辺広樹兼助教と本多佑希兼助教へ変更 ・土居悟兼教授の退職に伴い、担当授業科目「栄養と代謝」「疾病と治療Ⅲ」を久保正二兼助教へ変更 ・教育的效果を考慮し、仲谷和記兼准教授の担当授業科目「生物学」「病態生理学」「疾病と治療Ⅱ」を久保正二兼助教へ変更 ・教育的效果を考慮し、齊藤僚介兼任講師の担当授業科目「統計学」を尾藤央延兼任講師へ変更 ・教育的效果を考慮し、鄭貞美兼任講師の担当授業科目「コリア語Ⅰ」「コリア語Ⅱ」を関淳奎兼任講師へ変更 ・教育的效果を考慮し、竹内大樹兼任講師の担当授業科目「日本国憲法」を宇佐美和希兼任講師へ変更 ・教育的效果を考慮し、塩田正之兼任講師の担当授業科目「環境の科学」を都留浩子兼任講師へ変更 ・岡谷恵子専任教授就任に伴い、担当授業科目に「看護概論」「初期実習Ⅰ(生活をみる)」「初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践)」「大学基礎演習(看護基礎ゼミ)」「フィジカルアセスメント」「生活支援技術演習」「療養生活支援基礎実習」「課題研究」「看護管理実習」「統合実習」(令和3年3月AC教員審査済)「看護の歴史」(令和3年5月AC教員審査済)「看護と倫理」「看護政策」(令和3年12月AC教員審査済)を追加 ・教育的效果を考慮し、中島敦子兼任講師の担当授業科目「養護実習」を加藤直子兼任講師へ変更 ・教育内容充実のため、「キャリアマネジメント」の担当教員に兼任講師(令和4年9月採用予定)を追加 ・南谷恵敬兼任講師の退職に伴い、担当授業科目「仏教芸術入門」を削除 ・教育内容充実のため、「成育療養生活支援技術演習」の担当教員に佐藤由恵兼任講師、南朋子兼任講師を追加 <p><新カリキュラム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・山本あい子専任教授の退職に伴い、担当授業科目「初期実習Ⅰ(生活をみる)」「初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践)」「看護と倫理」「災害看護支援論」「災害看護支援技術演習」「国際看護フィールドワーク」を削除(後任検討中) ・赤井由紀子専任教授の退職に伴い、「母性生活支援技術演習」「母性生活支援実習」「課題研究」「統合実習」「助産概論」「助産診断・技術Ⅰ」「助産診断・技術Ⅱ」「助産診断・技術Ⅲ」「助産技術演習Ⅰ」「助産技術演習Ⅱ」「助産管理論」「助産実習」を削除(後任検討中) ・鈴木真知子専任教授の退職に伴い、「成育療養生活支援論」「成育療養生活支援実習」「成育療養生活支援実習Ⅱ」「課題研究」「統合実習」を削除(後任検討中) ・西田眞壽美専任教授の退職に伴い、「療養生活支援論(成人・高齢者)」「療養生活支援技術演習Ⅱ」「療養生活支援実習Ⅲ(老化に伴う健康課題)」「看護研究法」「課題研究」「統合実習」を削除(後任検討中) ・山田和子専任教授の退職に伴い、「地域生活支援論」「地域生活支援技術論」「地域生活支援技術演習Ⅰ」「地域生活支援技術演習Ⅱ」「健康教育論」「課題研究」「統合実習」「地域生活支援実習」を削除(後任検討中) ・池内香織専任准教授の退職に伴い、担当授業科目「初期実習Ⅰ(生活をみる)」「初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践)」「大学基礎演習(看護基礎ゼミ)」「フィジカルアセスメント」「生活支援技術演習」「療養生活支援基礎実習」「在宅療養生活支援実習」「課題研究」「看護管理実習」「統合実習」を削除 ・小西玲奈専任助教就任に伴い、担当授業科目に「初期実習Ⅰ(生活をみる)」「初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践)」「大学基礎演習(看護基礎ゼミ)」「フィジカルアセスメント」「生活支援技術演習」「療養生活支援基礎実習」「在宅療養生活支援実習」「課題研究」「看護管理実習」「統合実習」を追加(令和3年12月AC教員審査済) ・小出恵子兼任講師の退職に伴い、担当授業科目「地域生活支援技術論」を削除 ・教育内容充実のため、「保健行動論」の担当教員に令和4年9月までに採用を予定している兼任講師を追加 ・坂口京子専任准教授の退職に伴い、担当授業科目「フィジカルアセスメント」「生活支援技術演習」「療養生活支援基礎実習」「在宅療養生活支援実習」「課題研究」「看護管理実習」「統合実習」を削除(後任検討中) ・保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正に伴い、宮本雅子専任准教授の担当授業科目「助産概論」「助産技術演習Ⅰ」「助産技術演習Ⅱ」を「助産学概論」「助産技術学演習Ⅰ」「助産技術学演習Ⅱ」に変更 ・保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正に伴い、穂迫享子専任講師の担当授業科目「助産診断・技術Ⅰ」「助産診断・技術Ⅱ」「助産診断・技術Ⅲ」「助産技術演習Ⅰ」「助産技術演習Ⅱ」を「助産診断・技術学Ⅰ」「助産診断・技術学Ⅱ」「助産診断・技術学Ⅲ」「助産技術学演習Ⅰ」「助産技術学演習Ⅱ」に変更 ・松田常美専任講師の退職に伴い、担当授業科目「初期実習Ⅰ(生活をみる)」「初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践)」「大学基礎演習(看護基礎ゼミ)」「看護治療技術演習」「療養生活支援技術演習Ⅰ」「療養生活支援基礎実習」「療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期)」「療養生活支援実習Ⅱ(慢性期)」「課題研究」「看護管理実習」「統合実習」を削除(後任検討中) ・保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正に伴い、入江眞理専任助教の担当授業科目「助産技術演習Ⅰ」を「助産技術学演習Ⅰ」に変更 ・入江眞理専任助教の退職に伴い、担当授業科目「課題研究」「統合実習」「助産技術演習Ⅱ」「助産実習」を削除(後任検討中) ・加藤由加専任助教の退職に伴い、担当授業科目「療養生活支援技術演習Ⅰ」「療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期)」「療養生活支援実習Ⅱ(慢性期)」「在宅療養生活支援実習」「課題研究」「看護管理実習」「統合実習」を削除(後任検討中) ・眞壁美香専任助教の退職に伴い、担当授業科目「在宅療養生活支援実習」「地域生活支援技術論」「地域生活支援技術演習Ⅰ」「地域生活支援技術演習Ⅱ」「課題研究」「看護管理実習」「統合実習」「地域生活支援実習」を削除(後任検討中) ・保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正に伴い、松井博子専任助教の担当授業科目「助産技術演習Ⅰ」「助産技術演習Ⅱ」を「助産技術学演習Ⅰ」「助産技術学演習Ⅱ」に変更 ・宮崎志保専任助教の退職に伴い、担当授業科目「精神療養生活支援技術演習」「在宅療養生活支援実習」「精神療養生活支援実習」「課題研究」「看護管理実習」「統合実習」を削除(後任検討中) ・吉本和樹専任助教の退職に伴い、担当授業科目「療養生活支援技術演習Ⅱ」「療養生活支援実習Ⅱ(慢性期)」「療養生活支援実習Ⅲ(老化に伴う健康課題)」「在宅療養生活支援実習」「課題研究」「看護管理実習」「統合実習」を削除(後任検討中) ・教育的效果を考慮し、中田貴貞兼任講師の担当授業科目「上級英語Ⅳ(英語論文読解)」を削除(後任検討中) ・教育的效果を考慮し、上野舞斗兼助教、齊藤雅子兼任講師の担当授業科目「上級英語Ⅰ」「上級英語Ⅱ」を、齊藤裕己兼任講師、孫工季也兼任講師、羽尾将司兼任講師へ変更 ・教育的效果を考慮し、奥羽充規兼准教授の担当授業科目「上級英語Ⅲ(医療英語)」を、上野舞斗兼助教に変更 ・教育的效果を考慮し、奥羽充規兼准教授の担当授業科目「上級英語Ⅳ(英語論文読解)」を削除(後任検討中) ・岩尾洋兼教授の退職に伴い、授業科目「和の精神Ⅰ」「和の精神Ⅱ」を須原祥二兼助教へ変更 ・教育的效果を考慮し、東隆史兼任講師の担当授業科目「情報処理演習Ⅰ」を間辺広樹兼助教へ変更 ・教育内容の充実のため、浅田昇平兼准教授の授業科目「データ収集分析」を間辺広樹兼助教と本多佑希兼助教へ変更 ・土居悟兼教授の退職に伴い、授業科目「栄養と代謝」を久保正二兼助教へ変更 ・教育的效果を考慮し、仲谷和記兼准教授の担当授業科目「生物学」「病態生理学」「疾病と治療Ⅱ」を久保正二兼助教へ変更 ・教育的效果を考慮し、齊藤僚介兼任講師の担当授業科目「統計学」を尾藤央延兼任講師へ変更 ・教育的效果を考慮し、鄭貞美兼任講師の担当授業科目「コリア語Ⅰ」「コリア語Ⅱ」を関淳奎兼任講師へ変更 ・教育的效果を考慮し、竹内大樹兼任講師の担当授業科目「日本国憲法」を宇佐美和希兼任講師へ変更 ・教育的效果を考慮し、塩田正之兼任講師の担当授業科目「環境の科学」を都留浩子兼任講師へ変更 ・教員負担軽減のため、林正幸兼任講師の担当授業科目「保健統計学」を削除 ・岡谷恵子専任教授就任に伴い、担当授業科目に「看護概論」「初期実習Ⅰ(生活をみる)」「初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践)」「大学基礎演習(看護基礎ゼミ)」「(令和3年3月AC教員審査済)」を追加 ・教育的效果を考慮し、中島敦子兼任講師の担当授業科目「養護実習」を加藤直子兼任講師へ変更 ・南谷恵敬兼任講師の退職に伴い、担当授業科目「仏教芸術入門」を削除 ・教育内容充実のため、「成育療養生活支援技術演習」の担当教員に佐藤由恵兼任講師、南朋子兼任講師を追加

(注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。

・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**

・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。

・ 必要に応じて教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。

・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
12	6
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
10	7	6	7	30	2	10	5	5	8	28	1
(9)	(6)	(6)	(5)	(26)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
10	5	5	8	28	1	12	5	6	8	31	2
[0]	[Δ2]	[Δ1]	[1]	[Δ2]	[Δ1]	[2]	[Δ2]	[0]	[1]	[1]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員 うち、定年を延長し て採用する教員数
65	6	6
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{28}{30} = \boxed{93.33} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{6}{28} = \boxed{21.42} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{1}{2} = \boxed{50} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし								
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	教授	和田 (吉川) 恵美子	R2.6	必修	生活健康論	①	R2.6.30付け一身上の都合のため辞任 (3)
				必修	看護概論	②	
				必修	生活支援論	①	
				必修	初期実習Ⅰ(生活をみる)	①	
				必修	初級実習Ⅱ(コミュニケーションの実践)	①	
				必修	大学基礎演習(看護基礎ゼミ)	①	
				必修	フィジカルアセスメント	①	
				必修	生活支援技術演習	①	
				必修	療養生活支援基礎実習	①	
				必修	課題研究	①	
				必修	看護管理実習	①	
2	准教授	小出 恵子	R3.3	選択	保健行動論	②	R3.3.31付け一身上の都合のため辞任 (3)
				必修	初期実習Ⅰ(生活をみる)	①	
				必修	初級実習Ⅱ(コミュニケーションの実践)	①	
				必修	大学基礎演習(看護基礎ゼミ)	①	
				必修	療養生活支援基礎実習	①	
				選択	産業保健論	②	
				必修	在宅療養生活支援実習	①	
				選択	地域生活支援技術論	②	
				選択	地域生活支援技術演習Ⅰ	①	
				選択	地域生活支援技術演習Ⅱ	①	
				必修	健康教育論	①	
必修	課題研究	①					
必修	看護管理実習	①					
必修	統合実習	①					
選択	地域生活支援実習	①					
3	助教	西井 尚子	R2.9	必修	初期実習Ⅰ(生活をみる)	①	R2.9.30付け一身上の都合のため辞任 (3)
				必修	初級実習Ⅱ(コミュニケーションの実践)	①	
				必修	療養生活支援基礎実習	①	
				必修	精神療養生活支援技術演習	①	
				必修	在宅療養生活支援実習	①	
				必修	精神療養生活支援実習	①	
				必修	課題研究	①	
				必修	看護管理実習	①	
				必修	統合実習	①	
				必修	初期実習Ⅰ(生活をみる)	①	
				必修	初級実習Ⅱ(コミュニケーションの実践)	①	
4	教授	山本 あい子	R4.3	必修	看護と倫理	①	R4.3.31付け一身上の都合のため辞任 (4)
				必修	災害看護支援論	①	
				選択	災害看護支援技術演習	①	
				選択	国際看護フィールドワーク	①	
				必修	初期実習Ⅰ(生活をみる)	①	
5	准教授	池内 香織	R4.3	必修	初級実習Ⅱ(コミュニケーションの実践)	①	R4.3.31付け一身上の都合のため辞任 (4)
				必修	大学基礎演習(看護基礎ゼミ)	①	
				必修	フィジカルアセスメント	①	
				必修	生活支援技術演習	①	
				必修	療養生活支援基礎実習	①	
				必修	在宅療養生活支援実習	①	
				必修	課題研究	①	
				必修	看護管理実習	①	
				必修	統合実習	①	
				必修	初期実習Ⅰ(生活をみる)	①	
				必修	初級実習Ⅱ(コミュニケーションの実践)	①	

6	講師	松田 常美	R4.3	必修	初期実習Ⅰ(生活をみる)	①	R4.3.31付け一身上の都合のため辞任(4)						
				必修	初級実習Ⅱ(コミュニケーションの実践)	①							
				必修	大学基礎演習(看護基礎ゼミ)	①							
				必修	看護治療技術演習	①							
				必修	療養生活支援技術演習Ⅰ	①							
				必修	療養生活支援基礎実習	①							
				必修	療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期)	①							
				必修	療養生活支援実習Ⅱ(慢性期)	①							
				必修	課題研究	①							
				必修	看護管理実習	①							
				必修	統合実習	①							
合計(F)				後任補充状況の集計(G)									
辞任した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)					
6	人	必修	54	科目	必修	53	科目	必修	1	科目	必修	0	科目
		選択	9	科目	選択	6	科目	選択	3	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	63	科目	計	59	科目	計	4	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計(D)+(F)				後任補充状況の集計(E)+(G)									
辞任等した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)					
6	人	必修	54	科目	必修	53	科目	必修	1	科目	必修	0	科目
		選択	9	科目	選択	6	科目	選択	3	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	63	科目	計	59	科目	計	4	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{6}{30} = \boxed{20} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) 一⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

新たな教員を採用する、同領域の他の専任教員が担当できるようにAC教員審査を受審するなどを行うことで、特に問題はないと考える。また、学生へは履修要覧、時間割等で十分な周知を図っている。

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (平成30年)	入学時の新入生オリエンテーションや各学年の履修ガイダンス等で、保健師コースを希望する学生の不利益とならないよう、養護教諭2種免許状を取得するために必要な、教育職員免許法施行規則第66条の6で定める4科目を明示し、丁寧に説明を行うこと。	遵守事項 履修要覧に、保健師コース希望の学生が養護教諭2種免許状を取得するためには、教育職員免許法施行規則第66条の6で定められている4科目を修得する必要があることを記載するとともに、新入生オリエンテーション及び履修ガイダンス等にて、丁寧に説明した。 (元)	履行済 各学期の開始時に実施するオリエンテーションなどで、引き続き丁寧に説明していく。(元)
	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。	遵守事項 完成年度以降の後任補充については、分野や年齢構成等について検討を行い、若手教員を採用するように方針を固めた。(元)	履行済 左記の方針に基づき、採用計画をすすめる。(元)
	教員の補充を必要とされた1授業科目については、科目開講時までに確実に専任教員を配置して教員を充足すること。	遵守事項 教員の補充を必要とする科目は、令和3年度に開講される科目のため、開講に向けて準備をすすめている。 (元) 教員の補充を必要とされた1授業科目について、専任教員1名がAC教員審査を受審し、令和2年2月に「可」の判定を受けた。これにより、科目開講時(令和2年度)までに専任教員を配置することができた。(2)	履行済 令和2年度早期のAC教員審査を受け、専任教員を確保する。(元)
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和元年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和2年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和3年)	該当なし		

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>本学では、組織的な教育の改善に向け「ファカルティ・ディベロップメント委員会」を設置し、FDの企画立案事項の審議・推進を図ることを目的として活動している。</p> <p>また、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため「スタッフ・ディベロップメント委員会」を設置し、委員会を中心として大学職員の資質向上を図っている。</p> <p>なお、大学全体としては、大学の現状や課題などを共通認識とすることや意識改革を図るため、教員と職員が同時に参加する研修会やワークショップ、人権研修会などを開催している。</p> <p>また、看護学部では学部独自のFD委員会を設置している。FD委員会の構成は、委員長1名、副委員長1名、委員3名の計5名である。委員長は全学FD委員会の構成員であり、大学全体と看護学部の連携・協働を担っている。看護学部では、看護学の基盤・土台となる理論や技術をシミュレーション教育などアクティブ・ラーニングを多く取り入れながら、知識・技術・態度の統合を促している。</p> <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)</p> <p>令和3年度の開催:</p> <p>ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会(6回開催)</p> <p>第1回: 令和3年6月10日(出席者30名) 第2回: 令和3年6月24日(出席者31名) 第3回: 令和3年9月16日(出席者23名) 第4回: 令和3年10月14日(出席者21名) 第5回: 令和3年11月17日(出席者23名) 第6回: 令和4年3月17日(出席者25名)</p> <p>看護学部FD委員会</p> <p>第1回: 令和3年 5月19日(出席者5名) 第2回: 令和3年 9月7日(出席者5名) 第3回: 令和3年 10月15日(出席者5名) 第4回: 令和4年 1月21日(出席者5名) 第5回: 令和4年 3月9日(出席者4名)</p> <p>▼メール審議(案件)として</p> <p>令和3年 7月15日: 授業参観について(出席者5名) 令和3年 9月7日: 授業参観について(出席者5名) 令和3年 9月8日: シミュレーション研修について(出席者5名) 令和3年 9月17日: コーチング研修について(出席者5名) 令和4年 1月19日: FD委員会規程について(出席者5名)</p> <p>スタッフ・ディベロップメント委員会(1回開催)</p> <p>第1回: 令和3年11月24日(出席者8名)</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>【ファカルティ・ディベロップメント委員会】</p> <p>(1) 授業内容、方法および、評価に関する事項 (2) 授業の改善に関する事項 (3) その他、FDの目的達成のために必要な事項</p> <p>【スタッフ・ディベロップメント委員会】</p> <p>(1) SDの企画立案に関する事項 (2) SDの推進計画に関する事項 (3) SDの実施に関する事項 (4) その他SD推進に必要な事項</p> <p>【看護学部FD委員会】</p> <p>(1) 令和3年度の教員の研修企画について (2) 授業参観について (3) FD委員会規程の見直しについて</p>

② 実施状況

a 実施内容

<全学>

- ・合同研修会
- ・SD研修会
- ・人権研修会
- ・ファシリテーション研修

<看護学部>

- ① 科研費獲得を促進するための講演会（科研費獲得経験者2名の経験談を聞く）
- ② シミュレーション教育を導入した科目の教員相互の授業参観
- ③ コーチングの概要およびコーチングスキルの活用例に関する研修
- ④ シミュレーション教育に関する研修

b 実施方法

【合同研修会】

全教職員が一堂に会して年2回（各学期開始前）教職員能力開発と情報共有を図っている。

【SD研修会】

事務職員全員を対象とし、年1～2回の外部講師による研修を実施している。

【人権研修会】

全教職員を対象とし、年1～2回の人権研修を実施し、全学的に人権・同和教育等の推進をしている。

【ファシリテーション研修】

教育職員全員を対象で参加は申込制とし、開催した。

【看護学部研修会】

- ① については、学内の科研費を獲得した教員1名が申請者の立場から、審査経験のある教員1名が審査の立場から経験に基づく話題提供を行い、その後教員間で活発な意見交換を行った。オンラインと対面の両方で実施。
- ② については、成人看護学、小児看護学、基礎看護学分野各1科目ずつ計3科目の授業参観を4回にわたって実施し、実施後にアンケート調査を行って、参加者による授業の評価を実施した。
- ③ については、コーチングに造詣のある学部の教授を講師に、オンライン形式で実施。
- ④ については、外部講師を招聘し、オンラインと対面の両方で1回、オンラインで1回の計2回実施した。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

【合同研修会】

令和3年度は、夏学期合同研修会として令和3年3月29日に開催し、動画視聴も含め専任教職員245名、冬学期合同研修会については令和3年9月3日開催し、動画視聴も含め専任教職員231名が参加した。

【SD研修会】

令和3年度は、令和4年2月24日に外部講師を招き、「SDGsと四天王寺大学のこれから」と題した研修を実施した。教職員126名が参加した。

【人権研修会】

令和3年度は、令和3年2月に動画視聴及び資料配布による「コロナ禍におけるネット上の差別の現状と問題解決に向けた教育的アプローチ」と題した人権研修を実施した。教職員193名が参加した。

【大学授業に活かすファシリテーション基礎研修】

令和3年度は令和4年3月8日に外部講師を招き、「大学授業に活かすファシリテーション基礎研修」と題し研修を行った。研修はグループワークを中心に行い、参加者は24名であった。また、参加者アンケートでは全員が「満足・やや満足」の回答結果であった。

【看護学部研修会】

- ① については令和4年6月15日に開催し、対面とオンラインそれぞれ12名ずつ24名の教員が参加。
- ② については令和4年7月16日4・5限、令和4年7月19日3・4限、令和4年10月21日3・4限、令和4年11月25日3・4限を参観日と決めて実施。延べ15人の教員が参観し、アンケート調査による授業評価を行った。
- ③ については令和4年11月26日に実施し、20名の教員が参加した。
- ④ については、1回目は令和4年3月15日、10時～12時に本学部のシミュレーションセンターで実施した。シミュレーション教育で重要なリフレクションの概念と方法を学ぶ参加型のアクティブな研修で21名の教員が参加した。2回目は令和4年3月28日、14時～16時にオンラインで実施した。シミュレーション教育における学習目標の評価設定や評価方法に関する研修で19名の教員が参加した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

令和3年度は、研修会で「授業におけるICT活用」や「情報教育の事例報告」等を共有し授業改善につなげた。

<看護学部>

- ・教員相互授業参観では、参加者からの学生の学習の修得度やシミュレーション教育への関心が高まった、学修ポイントや自己学習で押さえる点などが明確に伝えられていたといった評価から、今後の自分たちの授業改善の取り組みに反映されるものと考えた。
- ・シミュレーション教育に関する研修では、研修内容が具体的にわかりやすく、授業改善に結び付けることが比較的容易にできる内容であったことや、リフレクションの具体的な方法を実践的に学べたことで、これまで存在していた教員間での取り組みの格差を是正できると考える。また、シミュレーション教育の目的・内容・評価の一貫した授業デザインの重要性を教員間で確認できたので、今後シミュレーション教育の導入を促進できると考える。
- ・コーチングの研修では、参加者から実習指導時の学生指導に活用できるという意見が多数あり、今後コーチングスキルを取り入れた実習指導方法を検討する素地ができたと考えた。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

令和元年度から令和3年度まで、指定規則の教育内容教育課程を全て予定通りに実施した。各授業終了時に、QRコード等を利用した記名でのリアクションペーパーの記載を実施（授業内容・方法に関する質問や意見、授業を受けた感想等を記載）。学生の記述を通して、授業での戸惑いや不安、授業への意欲や授業内容に関する理解・疑問点を含む意見をj得て、知識の理解レベルの把握に役立てている。また、次の授業時に学生の質問に対するフィードバック、回答や補足説明が必要な内容については授業内容に含めたりするなど、即時的に教育内容に反映している。各学期の終了時には、各科目への授業評価アンケートを受け、次年度への改善に役立てている。

全学的な授業評価アンケートは、各学期終了時に実施しており、令和4年度についても実施を予定している。

全学的な授業評価アンケートは、全授業科目（一部科目を除く）を対象にWebにより回答。夏学期・冬学期終了時に実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

リアクションペーパーの記述内容は、担当教員間で共有し、教育内容・方法等の検討資料としている。また、記述内容が授業改善に向けて、どのように反映されているかを含め、次の授業時間でフィードバックするとともに、学生の個人差を配慮しながらプライバシーの確保にも配慮している。授業アンケートの結果は、ホームページで公表している。

全学的な授業評価アンケートにおいては、教員は担当科目の結果（集計結果、自由記述）をWeb上で確認し、改善コメントを入力する。学生は、図書館において公開されている各科目の結果（集計結果、改善コメント）を閲覧することができる。なお、全体の集計結果については、大学HPで公開している。

(注) ・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学の教育理念は、聖徳太子の敬田院設立の精神（仏教精神）を基本とし、「すべての人が、他者および自身の善さを信じ、自らすすんで宗教的情操を涵養することで人格の陶冶を図りながら、広範にして深い知識と高い技術・技能を修得し、理想的な世界についての未来像を描き、その実現のための強い意志を鍛える修行を行う」ことである。その中で、看護学研究科は、看護の独自性・専門性を追求しつつ、多様化・複雑化している人々と社会の看護のニーズにこたえるために、研究遂行のための基礎的能力と高度実践能力を有する人材を育成する。

教員は計画通り全て着任し、建学の精神をはじめ、教育・研究の目的、3つのポリシー等の理解を深めており、定員に対する入学者数も確保している。

新型コロナウイルス感染拡大の防止に努めながら、講義（授業）をはじめとする教育研究活動はオンラインと対面授業のハイブリッドを実施し、履修指導、学生支援体制には万全を期し取り組んでいる。経済的な緊急支援体制も整え、今後も設置計画を確実に履行すべく努力を積み重ねていく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

令和2年度・・・「自己点検・評価シート」を令和2年9月に公表

令和3年度・・・「自己点検評価書」を令和3年9月に公表

令和4年度・・・「自己点検評価書」を令和5年3月に公表予定

b 公表方法

令和2年度・・・「自己点検・評価シート」をホームページに令和2年9月掲載

令和3年度・・・「自己点検評価書」をホームページに令和3年9月掲載

令和4年度・・・「自己点検評価書」をホームページに令和5年3月掲載予定

③ 認証評価を受ける計画

(専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。)

・令和4年度に公益財団法人日本高等教育評価機構の認証評価受審が決定

(現在の認証期間は、平成27年4月1日～令和5年3月31日)

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

